

金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書

平成 27 年 11 月

金沢大学附属図書館

はじめに

本報告書は、平成 21（2009）年度から平成 26（2014）年度までの 6 年間の金沢大学附属図書館の活動に対する、自己点検・自己評価の結果です。本附属図書館としては、平成 15 年度から 20 年度までの活動を対象とした前回に続く 2 度目の自己点検・評価であるとともに、今回初めて受けることとなる外部評価の前提となるものです。

前回の自己点検・評価の期間は、金沢大学にとって法人化（平成 16 年度）、3 学域・16 学類制への移行（平成 20 年度）という 2 つの大変革があった時期でした。附属図書館にとっては、第Ⅱ期角間移転事業の完成（平成 17 年度）に伴って自然科学系図書館がオープンし、3 館体制が確立された時期でした。しかし、それ以上に本附属図書館にとって重要だったのは、この時期に、全国的に情報の電子化が急速に進展し、その変化に伴って大学図書館機能の見直し・再構築が行われていたことだったように思います。本附属図書館でも、平成 15 年度から 20 年度までの 6 年間で電子ジャーナルのタイトル数が 351%も増え、平成 18 年には金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）が公開されるなど、前回の自己点検・評価は変化を確認し、次のあり方を展望するものになっていたように思われます。当時の柴田附属図書館長のあいさつ文に「自己点検・自己評価からあるべき図書館の姿を求めて」というサブタイトルがついていることが、そのことを如実に物語っています。そしてそこで想定されたあるべき姿は、あいさつ文のなかの『静謐空間』とは異なる発想の『勉強の場』が求められ」の一節に集約されていたように思います。

今回の 6 年間は、金沢大学全体としては、学域・学類制という大変革後の着実な発展期であると同時に、次への展開が模索されるという比較的平穏な時期でした。しかし、本附属図書館だけでみると、中央図書館におけるラーニング・コモンズの設置（平成 21 年度）に代表される、柴田前館長のことば通りの機能変化を経験するという激動の時期だったように思われます。こうした機能変化を受けて、今回の自己点検・評価では、新たに学修支援を独立した評価項目として設けました。この新機能は、平成 26 年度に就任した山崎光悦学長のもとで進められている金沢大学の新展開、とりわけ文部科学省のスーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業に採択されたことによる大変革のなかで、さらに充実させていくことが求められています。また、その他の機能についても、金沢大学の新展開のなかで多種多様な要望・要請が出されてきています。

それらに応えるためにも、本附属図書館の現状の正確な把握と課題の抽出・整理は大変重要な作業です。今回の自己点検・評価はそうした認識のもとに行われました。本報告書を読まれる方には、本報告書がそうした役割を目的通りに果たしているかどうか、厳しい目でチェックいただければ幸いです。

平成 27 年 11 月 20 日

附属図書館長 古 畑 徹

目次

はじめに	1
目次	2
参考資料	4
金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書中の数値・データについて	4
自己点検・評価ワーキンググループ	5
評価報告	
0 総評	6
1 組織・管理・運営	10
1-1 将来構想・理念等	
1-2 運営組織	
1-3 事務組織と職員	
1-4 図書館業務用システム等	
2 経費	16
3 施設・設備	21
3-1 施設	
3-2 情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等	
4 情報資源・資料	28
4-1 資料の収集方針と保存	
4-2 図書の整備	
4-3 雑誌(紙媒体)の整備	
4-4 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備	
4-5 金沢大学学術情報リポジトリ (KURA)	
4-6 目録情報の電子化	
4-7 コンテンツの電子化	
4-8 各種コレクションの整備	
5 サービス	39
5-1 開館日・開館時間	
5-2 来館利用及び貸出冊数	
5-3 図書館職員が行う利用者サービスの質	
5-4 ILL(他大学等図書貸借及び文献複写)	
5-5 イベント	
5-6 広報	
5-7 利用者満足度	

6	学修支援	・ ・ ・ ・ ・	48
6-1	情報リテラシー教育		
6-2	学修支援制度		
6-3	学修環境		
6-4	学生との協働		
6-5	関連イベント		
7	地域連携・社会貢献	・ ・ ・ ・ ・	55
7-1	県内公共図書館等との連携		
7-2	一般市民の利用		
7-3	イベント等		
7-4	所蔵貴重資料の提供		
7-5	環境への取り組み		

参考資料

- (資料 1) 平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書
- (資料 2) 金沢大学附属図書館基本理念と目標（平成 21 年度作成）
- (資料 3) 金沢大学附属図書館中長期ヴィジョン（平成 25 年度作成）
- (資料 4) 金沢大学附属図書館短期アクションプラン（平成 25 年度作成）
- (資料 5) YAMAZAKI プラン 2014（抜粋）
- (資料 6) 金沢大学附属図書館規程
- (資料 7) 金沢大学図書館委員会規程
- (資料 8) 利用者アンケート（平成 26 年度 2 月実施）調査概要及び分析結果
- (資料 9) 利用者アンケート（平成 26 年度 2 月実施）で出された自由意見
- (資料 10) 金沢大学附属図書館資料整備要項
- (資料 11) 金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針
- (資料 12) 金沢大学附属図書館受入資料取扱基準
- (資料 13) 金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項
- (資料 14) 中央図書館狭隘化対策 WG 検討報告書（平成 24 年 3 月 12 日、図書館委員会承認）
- (資料 15) 第 2 期中期目標・中期計画期間中における電子ジャーナル及びデータベースの利用実績及び選定基準についての評価（平成 26 年 3 月 13 日、図書館委員会承認）
- (資料 16) 柴田正良「自然科学系図書館の特別開館（24 時間利用）の中止について（持続可能な「自学自習」の確立に向けて）」こだま 167 号、2009
- (資料 17) 附属図書館関係各種統計（経年変化）
- (資料 18) 金沢大学附属図書館医学系分館将来構想計画：医学系分館将来構想検討ワーキンググループ報告書（平成 22 年 5 月）
- (資料 19) 金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料の指定及び取扱に関する要項
- (資料 20) 附属図書館の活動（平成 20～26 年度）
- (資料 21) 附属図書館関係各種統計（文部科学省学術情報基盤実態調査による他大学との比較）

金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書中の数値・データについて

- ・経年変化を比較する事項については、原則として平成 19～26 年度の数値・データを使用した。
- ・他機関等との比較については平成 25 年度の数値・データを使用した。
- ・ただし、平成 27 年 10 月までに改善等の動きがあった項目については、注記として付記した。

自己点検・評価ワーキンググループ

(座長)

古畑 徹 附属図書館長

(委員)

伊藤 秀一 附属図書館副館長・理工研究域数物科学系教授
尾崎 紀之 医学図書館長・医薬保健研究域医学系教授
齊藤 高広 図書館委員・人間社会研究域法学系教授
三木 理 図書館委員・理工研究域サステナブルエネルギー研究センター 教授
宮地 利明 図書館委員・医薬保健研究域保健学系 教授
濱 富美夫 図書館委員・情報部長（平成 26 年度）
清水 健 図書館委員・情報企画課長（平成 26 年度）
村田 勝俊 図書館委員・情報サービス課長（平成 26 年度）
上地 進 図書館委員・情報部長（平成 27 年度）
土田 浩 図書館委員・情報企画課長（平成 27 年度）
橋 洋平 図書館委員・情報サービス課長（平成 27 年度）

(活動記録)

- 平成 26 年 12 月 16 日 平成 26 年度第 2 回図書館委員会
(平成 26 年度附属図書館自己点検・評価実施要領、ワーキンググループの設置、スケジュールの承認)
- 平成 27 年 1 月 8 日 第 1 回ワーキンググループ開催
(利用者アンケートの検討)
- 平成 26 年 12 月 評価用データの収集
～平成 27 年 3 月
- 平成 27 年 1 月～2 月 利用者アンケート調査
- 平成 27 年 2 月～7 月 評価用資料とりまとめ
- 平成 27 年 7 月 30 日 第 2 回（平成 27 年度第 1 回）ワーキンググループ開催
(平成 27 年度附属図書館自己点検・評価実施要領、スケジュールの確認)
- 平成 27 年 8～10 月 評価用資料による評価の実施
- 平成 27 年 10～11 月 評価シートとりまとめ、報告書案作成
- 平成 27 年 11 月 25 日 第 3 回（平成 27 年度第 2 回）ワーキンググループ開催
(報告書案の検討)
- 平成 27 年 11 月 26 日 平成 27 年度第 3 回図書館委員会へ報告書案提出

0. 総評

総評を述べる前に、本自己点検・評価報告書の構成・評語について、少しく述べておく必要がある。

本報告書の章・節は、それぞれ「評価項目」・「評価の観点」を示し、観点ごとに4段階の評語で評価を行った。各評語の意味するところは前回の自己点検・評価と同じで、次のとおりである。

非常に良好である・・・十分な活動がなされている

概ね良好である・・・改善の余地がある

ある程度良好である・・・改善の必要がある

不十分である・・・大幅な改善が必要である

前回は、各委員が評価資料をもとに評価シートに自分の評価を記入し、それらを集計する形で評価が行われた。今回は、各委員が評価項目・評価の観点を分担して、評価資料をもとに評価シートに評語と分析を記入してそれぞれの素案を作成し、これをまとめたものを自己点検・評価ワーキンググループの座長である館長ほかで点検して原案を作成、さらにこれを自己点検・評価ワーキンググループ全体で確認して評価を確定させた。そのため、前回の自己点検・評価報告書とはかなり体裁に違いがあることを、あらかじめご了解願いたい。

さて、報告書の本文では、評価の観点ごとに評語が付けられているが、評価項目自体の評語はない。その部分についてはこの総評で行うこととし、まずは評価項目ごとの評価を行ったうえで、全体についての評価を行うこととしたい。

評価項目ごとの評価を行うに当たって、各評価項目における評価の観点の評語を点数化して、集計しておきたい。「非常に良好である」を4点、「概ね良好である」を3点、「ある程度良好である」を2点、「不十分である」を1点として集計する。

評価項目 \ 観点	1	2	3	4	5	6	7	8	平均
1. 組織・管理・運営	4	3	3	3	—	—	—	—	3.25
2. 経費	3	—	—	—	—	—	—	—	3.00
3. 施設・設備	2	3	—	—	—	—	—	—	2.50
4. 情報資源・資料	2	3	4	3	3	2	2	3	2.75
5. サービス	2	4	3	3	4	3	3	—	3.14
6. 学修支援	3	3	3	2	3	—	—	—	2.80
7. 地域連携・社会貢献	4	4	4	3	4	—	—	—	3.80

評価項目 1：組織・管理・運営 評語：概ね良好である（4 観点の平均値＝3.25）

「将来構想・理念」の観点については、明確に定めて公表していることから「非常に良好」が付いたが、「運営組織」「事務職員と組織」「図書館業務用システム等」についてはそれぞれに課題が挙げられており、そのためにそれぞれ「概ね良好」となった。総体的に見て、この項目の事項はスムーズに動いているとあってよく、課題を解決すべき方向性も明確なので、点数の平均値どおり、「概ね良好」の評語を充てることとした。

なお、前回の自己点検・評価では 8 名の自己点検評価委員がすべて「概ね良好」の評価を付けており、この 6 年間、そのレベルは維持できたといえることができる。

評価項目 2：経費 評語：概ね良好である

経費は 1 観点のみなので、それを転載した。現時点では「概ね良好」ではあるが、今後については楽観できない状況にある。

なお、前回の自己点検・評価では、「予算・経費」という項目名になっており、「予算」と「経費」に分けた叙述がなされていた。今回はこれを強いて分けずに「経費」に一本化しており、表などに相違はあるが、同じ内容についての評価項目とみてよい。前回の評価は、1 名が「非常に良好」、4 名が「概ね良好」、3 名が「ある程度良好」で、平均点にすると 2.75 点であった。評語的にはほぼ横ばいだが、必要な予算が一応確保できていることもあり、前回よりやや改善している感がある。

評価項目 3：施設・設備 評語：ある程度良好である（2 観点の平均値＝2.50）

「情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等」に関しては、課題はあるものの「概ね良好」の評価とした。「施設」については各館それぞれに課題を抱え、その課題に対する対応の目途が立っていないことから「ある程度良好」の評価とした。総合的に見ると、やはり「施設」の抱える問題は大きく、2.50 という平均点ではあるが、「ある程度良好」という評価を下さざるを得ないであろう。

なお、前回の自己点検・評価では、2 名が「概ね良好」、5 名が「ある程度良好」、1 名が「不十分」で、平均は 2.125 点、今回と同じ「ある程度良好」という評語に該当する。しかし、前回の自己評価では他の同規模大学と比較して極度に見劣りするとされた医学図書館の増改築が行われたことで、前回より状況は明確に好転している。

評価項目 4：情報資源・資料 評語：概ね良好である（8 観点の平均値＝2.75）

8 つの観点のうち、「雑誌の整備」は「非常に良好」、「図書の整備」「電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備」「金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）」「各種コレクションの整備」の 4 観点は「概ね良好」、「資料の収集方針と保存」「目録情報の電子化」「コンテンツの電子化」の 3 観点は「ある程度良好」であった。平均値は 2.75 となり、全体としては「概ね良好」ではあるが、保存管理上の問題、遡及入力、電子図書の整備などで大き

な課題が存在している。

なお、前回の自己点検・評価では、8名全員が「概ね良好」であった。この時点では、「雑誌・電子ジャーナル及び二次資料データベース」「目録情報とコンテンツの電子化」などのように今回2観点となったものが1つで扱われているなど観点が5つしかなく、まだ図書館資料の電子化が進展する途上であり、そこではあまり大きな問題は出ていなかった。その後の6年間で電子化は大きく進展し、そのなかで上記のような十分に対応できない部分が出てきたものと理解される。

評価項目5：サービス 評語：概ね良好（7観点の平均値＝3.14）

7つの観点のうち、「来館利用及び貸出冊数」「イベント」の2観点は「非常に良好」、「図書館職員が行う利用者サービスの質」「ILL（他大学等図書貸借及び文献複写）」「広報」「利用者満足度」の4観点は「概ね良好」、「開館日・開館時間」は「ある程度良好」であった。平均値は3.14となり、全体としては「概ね良好」である。大きな課題としては、医学図書館の開館時間の再検討が挙げられる。

なお、前回の自己点検・評価では、6名が「概ね良好」、2名が「ある程度良好」で、全体的には「概ね良好」だが、ある程度の課題はあるという結果であった。ただし、前回は学修支援の観点もサービスの項目に含めて評価をしており、単純には比較できない。

評価項目6：学修支援 評語：概ね良好（5観点の平均値＝2.80）

5つの観点のうち、「情報リテラシー教育」「学修支援制度」「学修環境」「関連イベント」の4観点は「概ね良好」だが、「学生との協働」はボランティア学生の確保や活動の認知度などに課題が残るとして、「ある程度良好」となった。そのため平均値は2.80ではあるが、学修支援の中核となる観点には大きな課題はないので、「概ね良好」という評語を充ててよいものとする。

この項目は前回の自己点検・評価ではなく、大学図書館におけるこの6年間の新たな展開を象徴するものである。それだけに本附属図書館としても力を入れてきたものではあるが、予算の問題や職員の能力・意識の問題などがあって、その必要性の高まりに十分に追いつけなかったところがあって、全体も個々の観点も「非常に良好」という評価にまでは至らなかった。

評価項目7：地域連携・社会貢献 評語：非常に良好（5観点の平均値＝3.80）

5つの観点のうち、「所蔵貴重資料の提供」が「概ね良好」である以外、「県内公共図書館等との連携」「一般市民の利用」「イベント等」「環境への取り組み」の4項目はすべて「非常に良好」であった。平均点は3.80で、全体としては「非常に良好」の評点となるが、それぞれの観点にかかる統計データはけっして大きな数値とはいえない。ただ、角間という市街地から離れて市民とのつながりがむずかしい場所にある大学図書館としては、十分に

上の地域連携・社会貢献をしているものとして、この評価を下したものである。

なお、前回の自己点検・評価では、5人が「概ね良好」、1人が「ある程度良好」、1人が「不十分」、1人が「未回答」であった。前回の統計データを見ると、ほとんど見るべきものはなく、今の基準で見れば「不十分」という評価が下されても不思議はない。「概ね良好」という評価があったというのは、大学図書館における地域連携・社会貢献の必要性があまり認識されていなかったために、当時の数少ない状況でもそれなりの評価を下す委員が多かったからであろう。それと比べると数値的に大きな伸びが見られ、この6年間で本附属図書館が意識的に努力してきた痕跡もはっきり見えることから、「非常に良好」の評価とした側面もある。

以上、個別の評価項目ごとの評価を見てきたが、それらを総合すると、この6年間の本附属図書館の活動全体としての評価は「概ね良好」とみなしてよいものと思われる。簡単な総括のしかたをすれば、従来のあり方を維持しつつも、大学図書館の新しい方向性を明確に認識し、それに向けて努力してそれなりの成果を上げた6年間ではあったが、残された課題も少なくはないというところであろう。

その残された課題の一部は、本附属図書館職員の意識改革によって好転が期待されるものなので、今まで以上に研修をはじめとする自助努力に努めるべきであろう。また一部は、文部科学省における金沢大学全体の評価や大学全体のなかにおける附属図書館の位置付けなどとも関わるため、本附属図書館の自助努力だけでは解決のむずかしい部分ではあるが、まずは課題を認識して各方面に働きかけていくことが重要といえよう。

そうした働きかけの成果が、本自己点検・評価期間後の今年度（平成27年度）になって現れてきているので、それを最後に付記する。

まず、老朽化していた中央図書館の室内空調設備の改修が認められ、改修後には課題のいくつかが解消できる見込みが付いた。また、トイレの改修も平成27年3月及び9月に行われ、トイレの老朽化問題は一応解消した。さらに、医学図書館3階集密書架の設置及びラーニング・コモンズのスペースの拡大についても、平成27年度国立大学改革基盤強化促進費（国立大学法人施設整備補助金）で整備されることが決まり、この課題もほぼ解消できる見込みが付いた。こうした設備関係以外でも、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業に採択された本学の事業計画の一環として、留学生を対象とした新たな学修支援制度（留学生ラーニング・コンシェルジュ制度）が今年度からスタートしており、学修支援方面もさらに充実した状況になっている。

1 組織・管理・運営

1-1 将来構想・理念等

【状況】

- 附属図書館の将来構想・理念等の策定が、「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」で課題として挙げられた（資料 1 p.10）。それを受け、平成 21 年度に「金沢大学附属図書館基本理念と目標」、平成 25 年度に「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」、「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」を策定した（資料 2、資料 3、資料 4）。
- 平成 26 年度に作成された「YAMAZAKI プラン 2014」（資料 5）の附属図書館の課題についても、「金沢大学附属図書館基本理念と目標」、平成 25 年度に「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」、「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」と連動する形で策定されている。

【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

附属図書館の将来構想・理念等については、「金沢大学附属図書館の基本理念と目標（平成 21 年 12 月 8 日）」、「金沢大学附属図書館長期ビジョン（平成 25 年 11 月 29 日）」及び「金沢大学附属図書館短期アクションプラン（平成 25 年 11 月 29 日）」を策定し、これらに明確に定め公表している。

また、これらを「YAMAZAKI プラン 2014」では、「教育研究活動支援機能の強化」としてビジョンに掲げ、適切に運営している。

1-2 運営組織

【状況】

- 「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」以降、実質的な運営組織上の大きな変更はない(図 1-1)。
- 中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館（保健学類図書室を含む。以下同じ。）の 3 館体制で運営している。
- 附属図書館には館長及び副館長が、医学図書館には分館長として医学図書館長が置かれている（金沢大学附属図書館規程・資料 6）。
- 附属図書館の運営に関する重要事項を審議するため、図書館委員会を設置している。
- 医学図書館は、医学図書館運営部会により運営されている。

- 「図書館委員会の下に作業部会等を置くことができる」とされており（金沢大学図書館委員会規程・資料 7）、表 1-1 のとおり年度毎に必要な部会等を設置している。

図 1-1 運営組織図（平成 26 年 5 月 1 日現在）（「図書館概要 2014」を基に作成）

■運営組織図

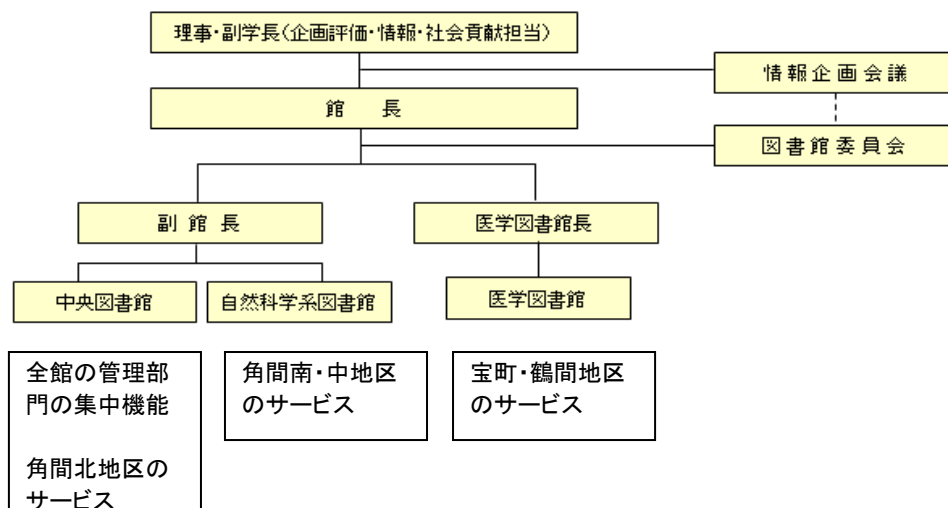


表 1-1 図書館委員会の下に設置された作業部会等

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
学生用図書選定部会	●	●	●	●	●	●	●
学術情報基盤整備 WG	●	●	●	●	●	●	●
自然科学系図書館引用 WG	●						
附属図書館自己点検・評価 WG	●						●
医学系分館将来構想検討 WG		●					
環境学コレクション整備 WG			●	●	●	●	●
ラーニング・コモンズ運営部会			●	●	●	●	●

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

中央図書館、自然科学系図書館及び医学図書館の 3 館が、学生・教職員が利用しやすいようそれぞれの分野に合ったサービスを提供している。

附属図書館の運営については、全学組織の図書館委員会で重要事項を審議し、必要に応じて部会、WGを設置し、機動的かつ効率的に運営しているほか、医学図書館では、医学図書館運営部会を設置してサービス対象部局の特色を加味した運営を行うなど、利用者の目線に立った柔軟な運営を行っている。

しかし、附属図書館長が3館の館務を掌理し、医学図書館長が医学図書館の館務を掌理する規程となっており、ガバナンスの観点から一考を要する。

1-3 事務組織と職員

【状況】

- 事務組織は情報部に属し、情報企画課の一部と情報サービス課全体が図書館業務を所掌している。
- 事務組織は、「平成20年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」以降、以下のとおり変遷し、平成26年5月1日現在は図1-2のとおりになっている。
 - H20.4 学域学類制発足に伴い、医学部分館係を医学系分館係に名称を変更
社会貢献室を情報企画課から総務部へ移行
 - H23.4 情報企画課を総務係、情報企画係、コンテンツ第一係、コンテンツ第二係の4係から、総務係、図書情報係、雑誌・電子情報係の3係に再編。それまで情報企画係が行っていた業務のうち主なものは、リポジトリに関する業務は雑誌・電子情報係、リテラシー教育に関する業務は情報サービス課中央図書館係、その他、キャンパスインテリジェント関係の業務は情報化推進室に振り分けられた。
 - H26.4 医学系分館係を医学図書館係に名称を変更
- 平成26年度5月1日現在の附属図書館の職員の現員数は、合計44名（うち非常勤職16、派遣職員4、時間外開館担当業務要員を除く。）で、職員一人あたりの学生数は、302.3人で、時間外担当業務要員29名を加算した場合は182.2人である。「平成26年度文部科学省大学情報基盤実態調査」によると、国立大学平均では166.2人であり、それぞれ、1.81倍、1.09倍となる。（文部科学省大学情報基盤実態調査の職員数には、時間外担当業務要員を含む大学と含まない大学がある。）
- 職員の構成及び職員数の推移は表1-2のとおりである。
- 中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館の3館体制により、図書、雑誌、電子ジャーナルの選定、契約、受入、目録作成に関する業務がほぼ一元化された一方、資料形態の多様化（冊子、電子資料）や、研究経費の多様化による各部局への確認作業や個別契約の必要性が生じたことにより、各係、特に図書情報係において業務量が増大している。
- 国立大学図書館協会の活動への参加、各種講習会への講師派遣など、館外の図書館活動にも貢献している。
- 「平成20年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」では、職員の育成について、「大学職員としてより広い視野を持った職員の確保や、育成体制の確立」を課題として掲げ（資料1 p.13）、「金沢大学附属図書館長期ビジョン」等に「新

たな任務を積極的に果たす」という目標が記載された。

- 大学間連携共同教育推進事業「図書館機能強化プログラム」の一環として、職員の情報リテラシー教育の実施及び企画に関する能力の向上を図るため、研修等を企画した（「6-5 (p. 54)」参照）。
- 図書系以外の職員が配置されるようになり、大学職員としてより広い視野を持った職員が確保されている。

図 1-2 事務組織図（平成 26 年 5 月 1 日現在）

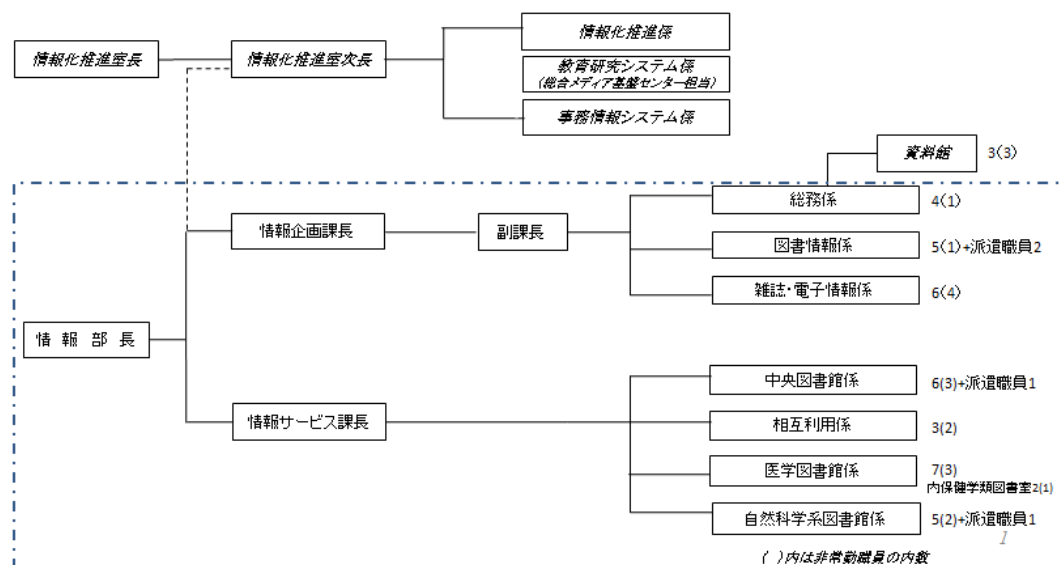


表 1-2 職員数の推移（「図書館概要」及び平成 27 年 7 月調べ）

年度		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
職員総数	専任	27	27	27	27	26	26	24	24
	臨時	16	18	16	16	17	17	18	16
	派遣	0	0	0	0	0	0	2	4
	計	43	45	43	43	43	43	44	44

【上記表の内訳】

年度		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
管理職		5	5	5	4	4	3	5	4
一般（庶務・会計）	専任	3	3	3	3	3	3	3	3
	臨時	1	1	0	0	1	1	1	1
	計	4	4	3	3	4	4	4	4
専門（図書館業務）	専任	19	19	19	20	19	20	16	17
	臨時	15	17	16	16	16	16	17	15
	計	34	36	35	36	35	36	33	32
派遣		0	0	0	0	0	0	2	4
合計		43	45	43	43	43	43	44	44

【うち司書数】

年度		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
司書	専任	19	19	18	17	16	18	16	16
	臨時	12	12	11	12	12	11	10	8
	派遣	0	0	0	0	0	0	0	2
	計	31	31	29	29	28	29	26	26

（外数）時間外学生アルバイト	18	18	21	22	22	24	26	29
----------------	----	----	----	----	----	----	----	----

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

事務組織は、従来の附属図書館を単位とした組織から、事務局 10 部の一部署である情報部が附属図書館を所掌しており、附属図書館の業務だけではなく、資料館、情報化推進室の業務も担う幅広い組織となっている。

附属図書館の職員数としては、従来からの人員数を維持している。司書資格を有する職員の定年退職後の後任補充の一部を一般職員で行うほか、図書館職員に一般事務部門を経験させることによる組織の活性化を図るなどの工夫を行っているが、職員の欠員による派遣職員の代替も生じており、改善を要する面がある。

物理的に離れた場所にある 3 館のサービスに係る業務に関する問題点を情報サービス課でまとめ、日常業務を行うほか、平準化が可能な業務の整理を行うなど業務の省力化に努めている。各館間での人事異動を定期的に行い、定例の打合せも行い、意思の疎通は十分に図られている。

1-4 図書館業務用システム等

【状況】

- 図書館業務用に活用しているシステム等については、表 1-3 のとおり更新した。
- 図書館システム（図書の購入、文献複写・相互貸借）に関しては、教職員の発注依頼データ入力段階での予算執行支援システムとの連携がなされておらず、システムの的に部局経理責任者の事前承認を得ることができていない。

表 1-3 図書館業務用システム等の更新状況

H21. 4	図書館業務システムの利用者データをアカンサス・ポータルと連携（注 1）
H24. 3	図書館業務用ソフトウェア NALIS を更新。OPAC に統合検索機能を追加し OPAC plus とする。（注 2）
H24. 4	金沢大学附属図書館貴重資料リポジトリの運用を開始
H25. 4	金沢大学附属図書館貴重資料リポジトリを金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムに統合（注 3）

（注 1）図書館システムと本学の教職員・学生用ポータルサービスであるアカンサス・ポータルとの連携が実現し、図書館の利用者データの登録作業が不要になった。

（注 2）平成 24 年 3 月のシステム更新により、OPAC に統合検索機能が追加され、本学で所蔵する蔵書、大学で契約している電子ジャーナルのタイトル及び機関リポジトリのコンテンツを一括検索できるようになった（OPAC plus）。ただし、こ

の統合検索機能については、全国の他大学で導入が進みつつあるディスカバリーサービス（図書館が提供する様々なリソースを同一のインターフェイスで検索できるサービス）で可能な、電子ジャーナルの論文単位までを含む高度な統合検索までは実現していない。

（注 3）平成 24 年度に附属図書館で所蔵する貴重資料等を電子化し、一般公開するため「金沢大学附属図書館貴重資料リポジトリ」の運用を開始した。平成 25 年度からは、資料館で運用している「金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアム」との統合を行った。

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

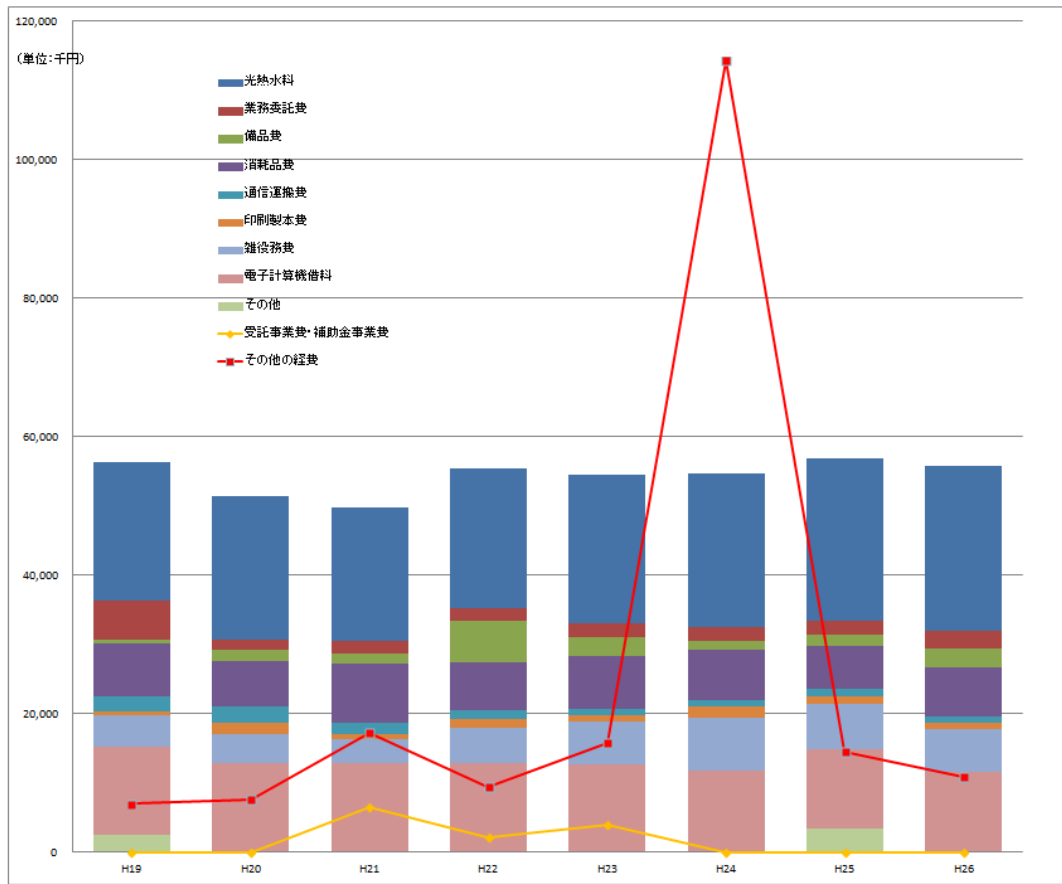
金沢大学附属図書館蔵書検索システム（OPAC plus）については、平成 23 年度末の更新により、所蔵する蔵書、電子ジャーナルのタイトル及び機関リポジトリのコンテンツを一括検索できるようになったが、電子ジャーナルの論文単位までを含む統合検索まではできない状況である。図書館業務システム導入時から、契約、受入、目録作成等の一連の業務はシステム化しているが、予算執行支援システムなど業務に直接関連する学内システムとの連携が不十分であり、改善する余地がある。

2 経費

【状況】

- 図書館運営費の推移は図 2-1、2-2 のとおりである。
 - ・その他の経費の主なものは、大学から配当される戦略経費、設備充実費、移転費、建物新営設備費、キャンパスインテリジェント経費及び寄附金経費がある。
 - ・平成 21 年度に、中央図書館にラーニング・コモンズ整備費用として約 15,500 千円が配当された。
 - ・平成 23 年度に、医学図書館の仮図書室への移転費用として 10,000 千円が、配当された。
 - ・平成 24 年度に、医学図書館増改築に係わる経費として、移転費約 6,700 千円、建物新営設備費約 78,900 千円の配当があり、また、十全同窓会から約 22,500 千円の寄付があった。
 - ・平成 25 年度に、医学図書館増改築に係わる経費として、十全同窓会から約 4,200 千円の寄付があった。
- 本学の資料費（図書館で契約している資料）の推移は図 2-3 のとおりである。
 - ・平成 23 年度は、特別整備事業「電子ジャーナルの拡充」の要求に対して、約 115,600 千円が、科学研究費間接経費で配分された。
- 図書館に配当されている資料費の推移は図 2-4 のとおりである。
- 資料費のうち、特別整備事業年次計画中の「電子ジャーナル等の拡充」経費の推移は図 2-5 のとおりである。

図 2-1 図書館運営費の推移（「図書館委員会決算資料」）

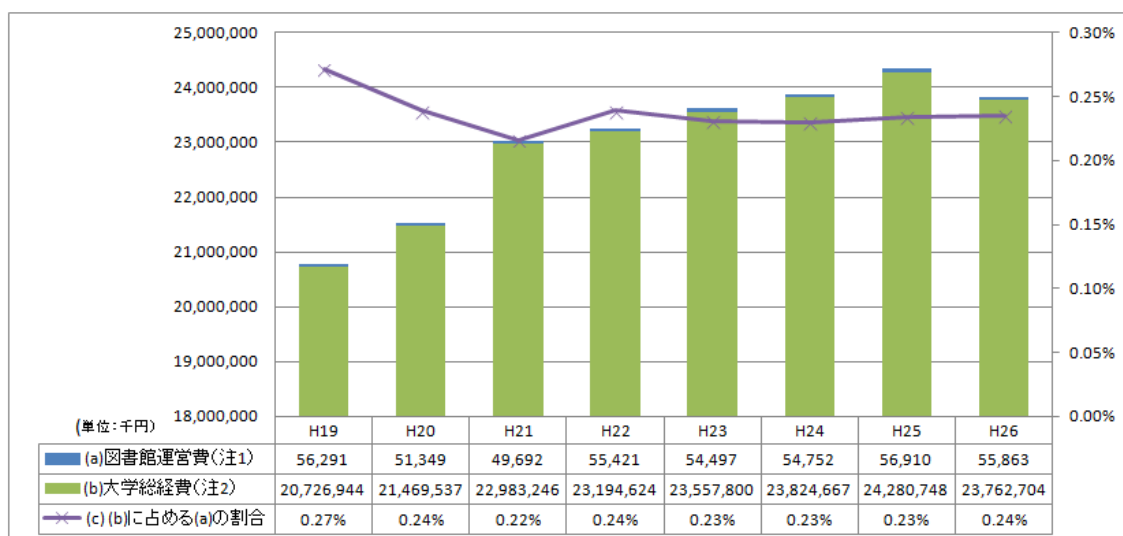


(単位:千円)

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
運 営 費	光熱水料	19,977	20,562	19,199	20,189	21,522	22,211	23,401	23,868
	業務委託費	5,584	1,586	1,821	1,802	1,953	1,994	2,109	2,654
	備品費	551	1,565	1,462	5,910	2,635	1,350	1,637	2,653
	消耗品費	7,687	6,534	8,542	7,039	7,623	7,154	6,091	7,010
	通信運搬費	2,107	2,306	1,623	1,257	997	995	1,150	1,056
	印刷製本費	642	1,676	663	1,200	919	1,681	1,032	798
	雑役務費	4,486	4,184	3,516	5,188	6,103	7,628	6,545	6,117
	電子計算機借料	12,677	12,677	12,677	12,677	12,586	11,587	11,587	11,587
	その他	2,580	259	189	159	159	152	3,358	120
	運営費小計	56,291	51,349	49,692	55,421	54,497	54,752	56,910	55,863
受託事業費・補助金事業費		0	0	6,500	2,208	4,000	80	0	0
その他の経費		7,000	7,656	17,345	9,448	15,797	114,269	14,580	10,944
総計		63,291	59,005	73,537	67,077	74,294	169,101	71,490	66,807

(注) 医学図書館の光熱水料を除く。

図 2-2 図書館運営費と大学経費の推移（「図書館概要」及び「大学財務諸表」）



(注 1) 特別管理経費及び図書館事業費

(注 2) 財務諸表「損益計算書」の経常費用から人件費、受託研究費及び受託事業費を引いたもの

図 2-3 全学の資料費(図書館執行分)の推移（「図書館概要」）

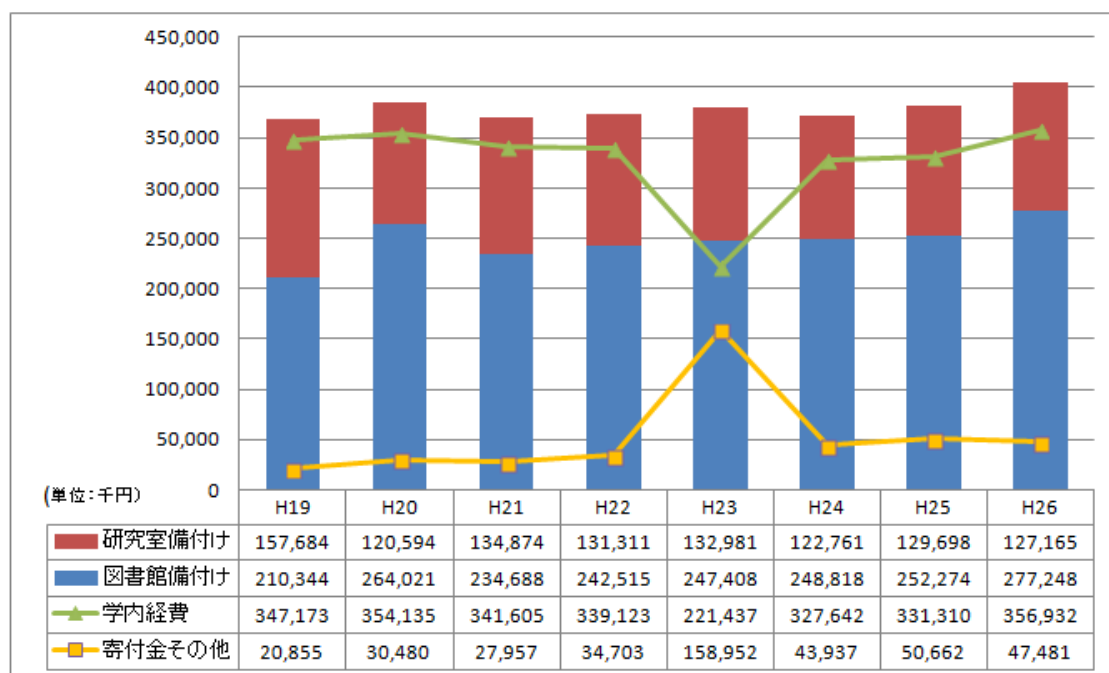


図 2-4 図書館配当図書費の推移 (「図書館委員会決算資料」)

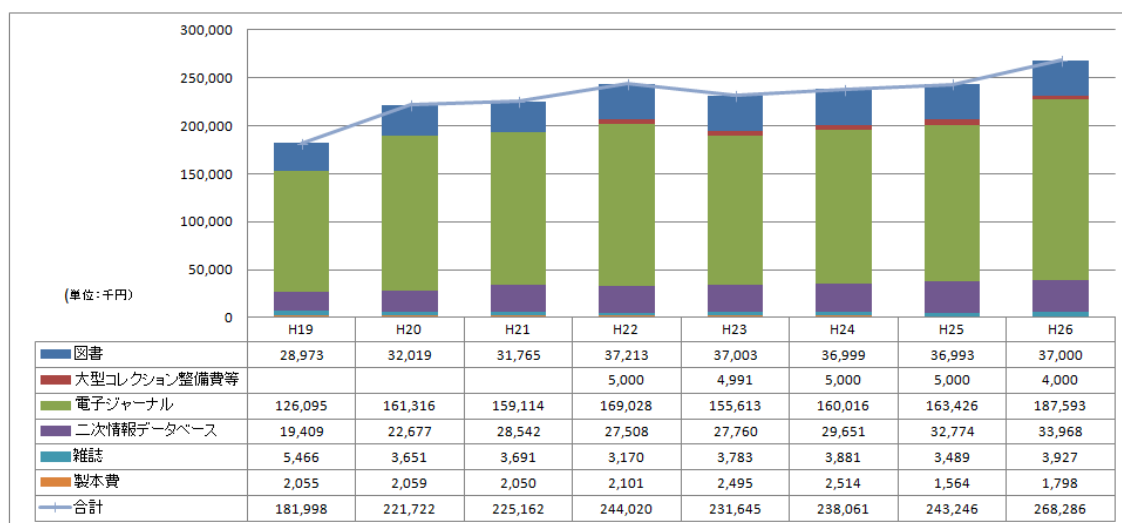
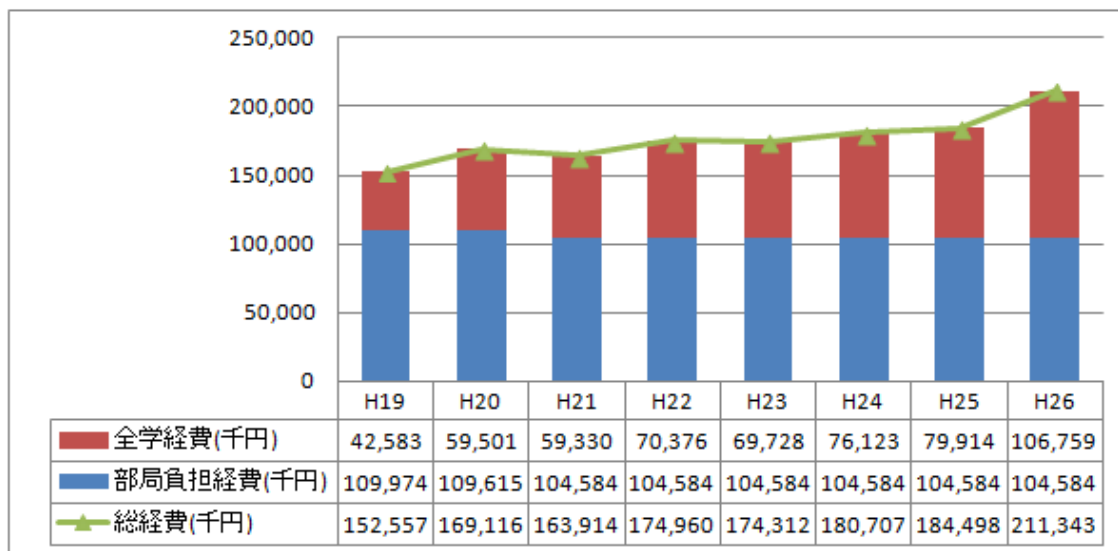


図 2-5 特別整備事業年次計画中の「電子ジャーナル等の拡充」経費の推移 (「平成 21 年度及び平成 26 年度学術情報基盤整備 WG 資料」)



【分析・評価】

評価： □非常に良好である ■概ね良好である □ある程度良好である □不十分である

分析・評価コメント：

図書館運営費は、一時期減少傾向が見られたが、その後回復し、概ね安定的に確保している。図書館運営費は、光熱水料及び電子計算機借料の固定経費の割合が高いが、光熱水料については、これまでも抑制に取り組み、これ以上の削減は困難な状況である。将来的な課題としては、プライベートクラウド化や Web システム導入の検討等、電子計

算機借料の削減を模索していく必要がある。

本学の資料費、図書費及び電子ジャーナル経費は、概ね増加しており、そのための予算を確保している。しかし、電子ジャーナルについては、価格の上昇並びに消費税の新規課税及び税率の変更が予定されているという状況を勘案すると、今後の購入タイトル数の維持について楽観できない状況である。

（注）光熱水料について、平成 27 年度に中央図書館室内空調設備の改修を行うこととなった。高効率タイプのエアコン導入が予定されており、光熱水料の削減が見込まれる。

3 施設・設備

3-1 施設

【状況】

- 3館の施設の概要は表3-1のとおりである。
- 平成20～26年度の主な整備状況は表3-2のとおりである。
- 「平成20年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」で挙げられた建物・書架等の整備に関する問題点（資料1、p.17）とその対応状況は表3-3のとおりである。
- 利用者アンケート（平成27年2月実施）では、設備のアメニティ、安全性、アクセス等に関して多くの意見が寄せられた（資料9）。

表3-1 施設概要（建物、閲覧席、収蔵能力）（平成27年4月1日調べ）

	閲覧座席数・面積・主な施設等		蔵書数 *	収蔵能力**
中央図書館 平成元年竣工 平成22年3月改修	972 席 10,456 m ²	電動集密書架、特別資料室、特別閲覧室、AV室、グループ学修用スペース（オープンスタジオ、グループスタジオ、ブックラウンジ（ほんとかふえ。）、マイクロ資料室	1,198,192 冊	809,167 冊
			書架収容率 148%	
自然科学系図書館 平成17年竣工	726 席 6,513 m ²	自動化書庫、貴重書室、AVホール・グループ学習室、研究個室、演習室、国際交流ルーム	391,823 冊	508,222 冊
			書架収容率 77%	
医学図書館 昭和44年竣工 平成24年3月増改築	343 席 3,185 m ²	電動集密書架、十全記念貴重資料室、グループ学修用スペース（オープンスタジオ、十全記念スタジオ、グループスタジオ、ブックラウンジ（プラタナスカフェ））、研究個室、自習室	243,469 冊	151,917 冊
			書架収容率 160%	
保健学類図書室 平成12年竣工	58 席 356 m ²	集密書架 グループ学習室	44,492 冊	31,542 冊
			書架収容率 141%	

* 地区の部局所蔵含む

** 25冊/0.9m（棚長）として計算

表 3-2 建物、設備等の年度別の整備状況

	中央図書館	自然科学系図書館	医学図書館
H20	冷房用室外機 1 基を冷暖房用に交換 無線 LAN 設備の増強 PC 用コンセント増設		1F 閲覧室什器を一部更新 1F 閲覧室天井灯交換 無線 LAN 設備の設置
H21			情報ラウンジの検索用パソコンの追加 図書無断持出禁止装置及び入退館ゲートを更新 2F 閲覧室什器を一部更新
H22	ラーニング・コモンズ（オープンスタジオ、グループスタジオ、ブックラウンジ（ほんとかふえ。）、インフォスクエア、マルチメディア・ラーニングスペース）の設置 書庫及びトイレの照明の人の感センサー化資料館側扉の自動ドア化		
H23	大学会館側玄関（屋外）にパラソルを設置（冬季を除く）	環境学コレクションに AV ブースを設置 入館ゲートを更新	増改築工事の開始に伴い、附属病院旧外来診療棟に仮移転
H24	オープンスタジオの壁面の全面ホワイトボード化 音声・拡大読書機を設置	音声・拡大読書機を設置	医学図書館竣工 ブックラウンジに自動販売機設置 音声・拡大読書機を設置
H25	3F 書架を増設		玄関横にモニュメントを設置
H26	ブックラウンジの音響設備の更新 3F 書架を増設 2F トイレ改修	演習室の 1 つを国際交流ルームに転用 国際交流ルーム用什器の整備	ブックラウンジにプラタナスカフェを設置

表 3-3 建物・書架等の整備に関する課題と対応状況

	課題	対応・予算要求
中央図書館	書庫の狭隘化への対応	一部、書庫資料の自然科学系図書館自動化書庫への移動により対応 平成 28 年度施設整備費補助金に概算要求「中央図書館・資料館棟の改修」
	学修環境を時代に合わせて変更する必要	平成 21 年度末にラーニング・コモンズを設置。ただし、大学の授業のアクティブ・ラーニング化に対応し、グループ学習スペースや個人学修のための個室スペースが不足
	冷暖房設備の老朽化への対応	平成 28 年度施設整備費補助金に概算要求「中央図書館・資料館棟の改修」
	電動集密書架の更新	平成 28 年度基盤的設備等整備概算要求「中央図書館電動集密書架の改修」
自然科学系図書館	空調の改善	空調期間の延長により対応
医学図書館	施設の老朽化への対応	平成 24 年度末に医学図書館の増改築が竣工
	地区学生数に対する座席数不足への対応	
	医学部旧書庫から自然科学系図書館開館時に同館保存書庫に仮置きされた図書の収蔵スペースの確保	増改築を行った医学図書館の 3F 書庫に書架が未設置 平成 28 年度基盤的設備等整備概算要求「医学図書館への集密書架の設置」

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

【中央図書館】

書架収容率が高く、収蔵能力を超えている。すでに中央図書館狭隘化対策 WG で検討、提言（資料 14「中央図書館狭隘化対策 WG 検討報告書、平成 24 年 3 月 12 日」）されているように、書架の整備に加え、蔵書を減らす、受け入れ図書を減らす等の対応が必要である。

時代に合わせた学修環境を提供するために、平成 21 年度末にラーニング・コモンズを設置し、機能的で快適な学修支援の場としての図書館の機能を高めるための設備の整備を進めている。今後は、授業のアクティブ・ラーニング化に対応したグループ学修のスペース拡大や、個人学修のための個室スペースの増設など、学修形態の多様化・ニー

ズに合わせた整備が必要である。

冷暖房設備の老朽化や集密書架の改修も、引き続きの課題である。

【自然科学系図書館】

前回の報告書ですでに自動化書庫内を含めた換気・空調、照明調節の運用等に課題が指摘されていた。PFI 事業のため、設備の整備面では対応ができていないが、冷暖房期間の延長により対応している。

【医学図書館】

施設の老朽化が指摘されていた医学図書館が増改築され、平成 24 年度末に竣工された。老朽化による書籍の収集・保存機能の不足や座席数の不足など、安全面での問題等、医学図書館の直面していた多くの問題を改善した。しかし、増改築を行った医学図書館 3 階の書庫の書架が未設置であり、収蔵能力の不足が見られる。医学部旧書庫の蔵書が、自然科学系図書館保存書庫に仮置きされており、書架の整備が必要である。

【保健学類図書室】

書架収容率が高く、収蔵能力を超えており、蔵書を減らす、受け入れ図書を減らす等の整理が保健学類図書室でも必要である。

(注) 冷暖房の老朽化については、平成 27 年度に中央図書館室内空調設備の改修を行うこととなった。また、医学図書館 3 階集密書架の設置及びラーニング・コモンズのスペースの拡大については、平成 27 年度国立大学改革基盤強化促進費（国立大学法人施設整備補助金）で整備されることとなった。

3-2 情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等

【状況】

- 「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」で挙げられた課題(資料 1、p. 18)とその対応状況は表 3-4 のとおりである。
- 視聴覚設備の対応状況は表 3-5 のとおりである。自然科学系図書館の AV ルームのプロジェクターは照度が落ちて見にくい、平成 17 年度以降更新されていない。
- 各館の利用者用機器の整備状況は表 3-6 のとおりである。「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」以降の主な整備状況は以下のとおりである。
 - ・平成 22 年度以降、各館にブルーレイプレーヤーを導入
 - ・平成 24 年度、視覚障がい学生（弱視）への対応のために各館に音声・拡大読書機「よむべえ」を設置

- ・学生のパソコン必携化に対応し、メンテナンス業務の省力化を図るため、自然科学系図書館の利用者用パソコンを平成 19 年度 99 台から平成 26 年度 19 台に大幅に削減した（表 3-7）。
 - ・平成 25 年度以降、各館の利用者用パソコンをシンククライアント化し、管理業務の軽減を図った。
- 各館のネットワークカメラの整備状況は表 3-8 のとおりである。自然科学系図書館のネットワークカメラは平成 17 年度以降更新されていない。

表 3-4 情報・ネットワーク関連機器に関する全館的な課題と対応状況

	課題	対応状況
全館	図書館内の利用者用パソコンについて、学生の必携パソコンの携行実態を見ながらセキュリティ確保とメンテナンスの省力化の両立を図ること	平成 21 年度末の中央図書館でのラーニング・コモンズの設置後、情報化推進室の ICT インフラ整備事業により、順次、全館の利用者用パソコンをシンククライアント化し、メンテナンスの手間を減らした。
	図書館内の無線 LAN アクセスポイント及び情報コンセントを整備すること	情報化推進室の ICT インフラ整備事業により、接続が不安定だった、全館の無線 LAN 環境を順次改善した。
	多機能 IC カードを導入すること	平成 22 年度から、IC カード化されている学生証及び職員証を使って、図書の貸出等の手続きが可能になった。

表 3-5 視聴覚設備等の対応状況

	対応状況
中央図書館	平成 21 年度末にラーニング・コモンズを設置した際、従来の利用者用パソコンコーナーをインフォスクエアとして整備し、什器類を更新。ただし、利用者用パソコンについては、学生のパソコン必携化に伴い、設置台数は増やしていない。
	平成 26 年度、ブックラウンジの音響設備の更新
自然科学系図書館	平成 23 年度に環境学コレクションを設置した際に視聴覚資料の視聴用ブースを整備
医学図書館	平成 23 年度末の増改築の際、2 階オープンスタジオにシンククライアントパソコン 29 台を設置した PC コーナーを整備

表 3-6 各館別機器数一覧 (平成 26 年度末現在) (平成 27 年 7 月調べ)

視聴覚機器等	中央図書館	自然科学系図書館	医学図書館
マイクロリーダー	4	0	0
ビデオプレーヤー	10	11	1
LD/DVD/ブルーレイプレーヤー	18	13	6
音声・拡大読書機等	2	1	2

表 3-7 各館別利用者用パソコン数の推移
(「文部科学省学術情報基盤実態調査(*)」及び平成 27 年 7 月調べ)

(*) H19～21 は視聴覚閲覧用、H22 以降は利用者用

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
中央図書館	22	22	22	22	28	31	31	31
自然科学系図書館	99	90	85	79	98	37	24	24
医学図書館	13	13	19	19	13	29	29	29
計	134	125	126	120	139	97	84	84

表 3-8 ネットワークカメラの整備状況

	実施内容
H24	医学図書館の増改築時にネットワークカメラを導入
H25	中央図書館と自然科学系図書館で増設
H25～26	中央図書館のカメラの老朽化に伴う修理費の増大に対応するため、学内のキャンパスインテリジェント化予算により中央館図書館分のネットワークカメラを更新

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

図書館内の利用者用パソコンのセキュリティ確保とメンテナンスの省力化の両立が課題であったが、情報化推進室の ICT インフラ整備事業により、平成 21 年度末の中央図書館ラーニング・コモンズでの整備から始めて、順次、全館の利用者用パソコンをシンククライアント化し、メンテナンスの手間を減らした。

無線 LAN アクセスポイントや情報コンセントの整備が課題であったが、情報化推進室の ICT インフラ整備事業により、全館の無線 LAN 環境の改善を進めた。

多機能 IC カードである学生証及び職員証の図書館業務への導入が検討されていたが、平成 22 年度から IC カード化されている学生証及び職員証で、図書の貸し出し手続きが可能となった。

セキュリティ対策として、ネットワークカメラの整備を進めている。当面の課題としては、自然科学系図書館のネットワークカメラの更新が必要である。

4 情報資源・資料

4-1 資料の収集方針と保存

【状況】

- 図書館資料の収集に関しては、「金沢大学附属図書館資料整備要項」（資料 10）、「金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針」（資料 11）、「金沢大学附属図書館資料受入取扱基準」（資料 12）に基づいて実施している。
- 「金沢大学附属図書館基本理念と目標」では「前身校等から受け継いだ資産の保存管理体制の整備」、「金沢大学附属図書館中長期ヴィジョン」では「電子的資料の積極的導入と蔵書の電子化」という目標を掲げている。
- 資料保存に関しては、3 館体制に基づき、各館の専門に対応した資料を各館の書庫で保存する体制としている。また、各キャンパスの研究室から返納された図書・雑誌についても、対応する館の書庫に保存している。
- 資料の除籍については、「金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項」（資料 13）に基づいて、重複所蔵資料について実施している。
- 中央図書館の狭隘化対策については、平成 23 年度に図書館職員による WG を組織し、蔵書の保存基準等の見直しによる対策をまとめたが（資料 14）、日常業務と並行した作業になることもあり、大きく進展していない。さらに近年、団塊の世代の教員の定年退職、アクティブ・ラーニングの導入により図書室として利用していた部屋の改装等に伴い研究室等から多数の図書が返納されており、狭隘化がさらに進行している状況である。
- 書庫の狭隘化問題については、他大学図書館でも問題になっているため、東海北陸地区で共同書庫を建築し、バックナンバー等を集中化する構想もあり、名古屋大学から概算要求を行う予定である（YAMAZAKI プラン 2014）。
- 中央図書館の保存書庫には、和装本が帙に入れず配架されている。
- 平成 26 年度には、医学図書館閲覧室、中央図書館保存書庫等で、資料のカビが確認された。

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

資料の収集方針及び重複所蔵資料の処分方針は妥当であり、適正に運用している。ただし、書架の狭隘化は大きな問題となっており、さまざまな観点からの工夫が必要である。

資料収集の質と量の充実については、予算規模の問題もあり旧帝国大学など大規模な

大学に及ばないのは致し方ないが、3館体制を活かしながら、利用者の声を反映させつつ、長期的視野に立って資料の選択収集に務めていく必要がある。

保存状況については、平成26年度に確認されたカビの発生という事態を教訓にし、今後は保存状態の管理について見直しが必要である。

4-2 図書の整備

【状況】

- 図書の蔵書数（研究室利用図書を含む。）は、平成19年度の合計1,758千冊から平成26年度の1,878千冊に増加した（図4-1）。
- 図書の年間購入冊数（研究室利用図書を含む。）と除籍数は図4-2のとおりである。
- 平成19、20年度は、角間キャンパスにある2つの図書館が持っていた資料を、分野による分担収集の考えに基づく重複調整に伴い、自然科学系図書館で所蔵しているタイトルについては中央図書館の製本雑誌を除籍した。
- 学生用図書整備費は、平成22年度以降は、学術情報基盤整備計画の中で年間3,700万円の整備費を確保し、学生1人あたり3,500円程度の学生用図書の整備が可能となっている（図4-3）。
- 学生用図書の選定は、中央図書館と自然科学系図書館に関しては、図書館委員会の下に置かれた「学生用図書選定部会」で選定を行っている。
- 医学図書館及び保健学類図書室に配架する学生用図書については、主として医薬保健学域の各研究室からの推薦に基づいて選定を行っている。
- 利用者アンケート結果（資料9）では、現在の選定基準には含まれていない資料（学術的な資料以外の小説や軽い読み物、新書、文庫等）の購入希望が多数あった。

図4-1 蔵書数の推移（「図書館概要」）

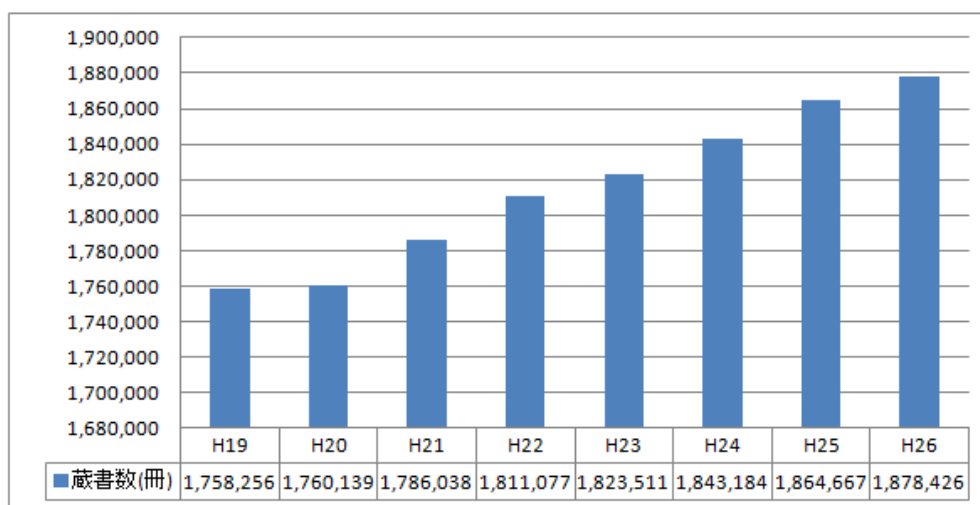


図 4-2 年間購入冊数及び除籍冊数の推移（「図書館概要」及び平成 27 年 7 月調べ）

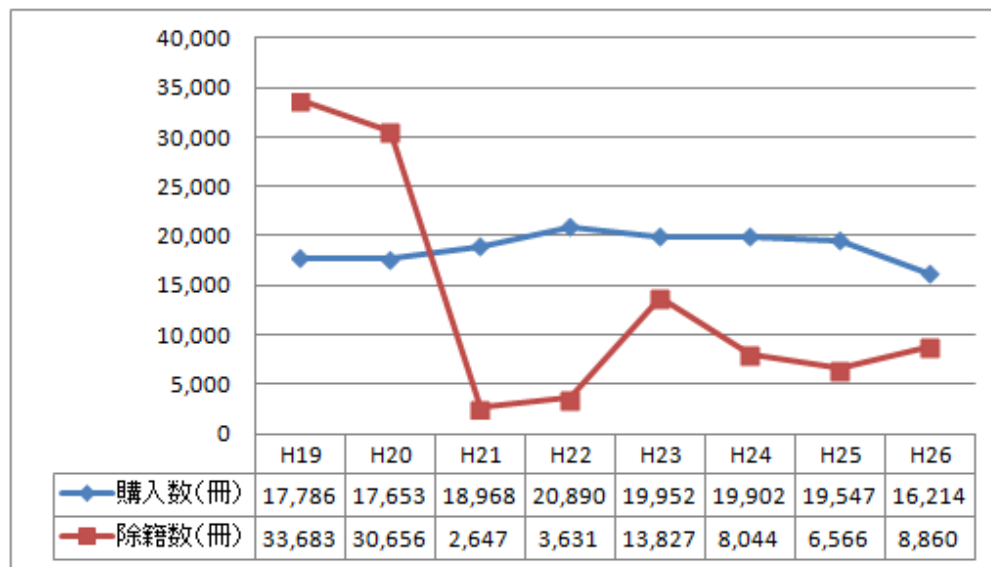
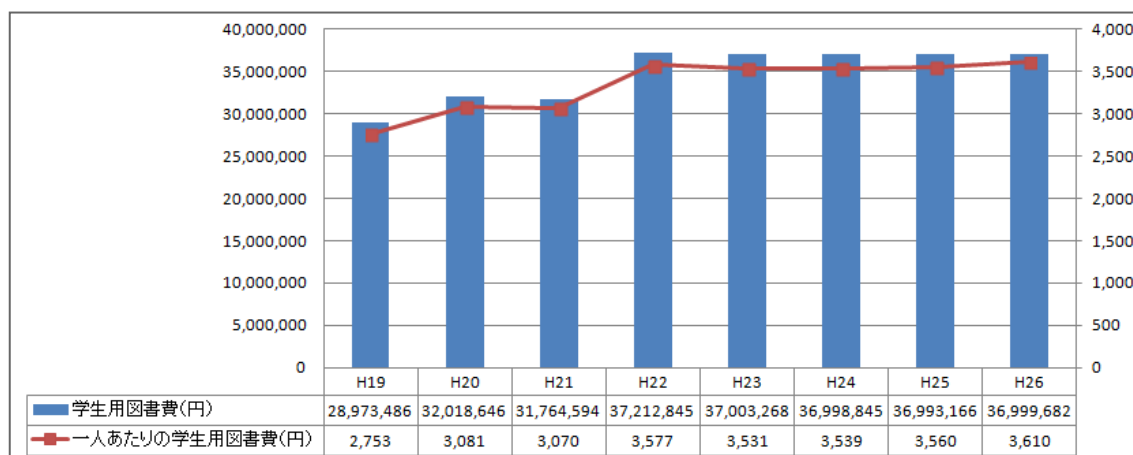


図 4-3 学生用図書費の推移（「図書館委員会決算資料」及び「大学概要」）



【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

平成 17 年の自然科学系図書館の開館を機に、平成 19、20 年度に大量の重複資料を廃棄し、その後は定期的に重複調整を行っている。また、学生用図書費を安定的に確保している。図書選定を学生用図書選定部会及び各学類からの推薦によって適切に購入している。さらに、利用者（学生、教員）からの購入希望に迅速に対応している。

ただし、学生用図書のより良い利用環境のためには、利用頻度の高い図書については複数本を揃えるといった工夫が必要であり、改善の余地がある。また、大学全体としては、専門性の高い図書の収集について他の研究大学などの状況を把握した上で、今後の

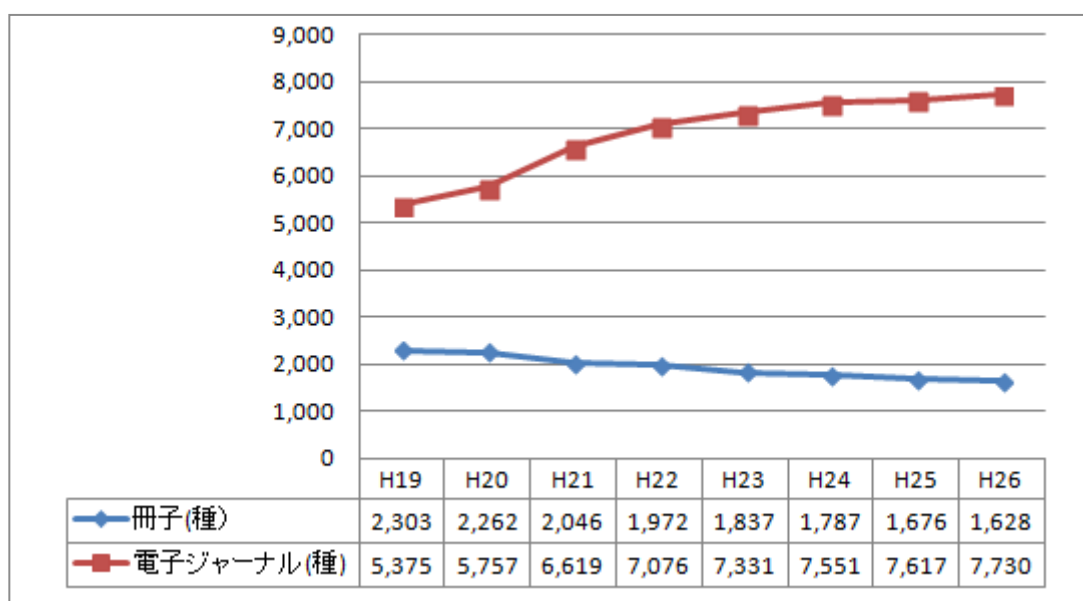
整備に活かしていく必要がある。

4-3 雑誌（紙媒体）の整備

【状況】

- 紙媒体の学術雑誌の購読タイトル数は、重複調整及び電子ジャーナルへの移行が急速に進んだため、図 4-4 のとおり減少傾向にある。

図 4-4 購読雑誌数の推移（「図書館概要」）



【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

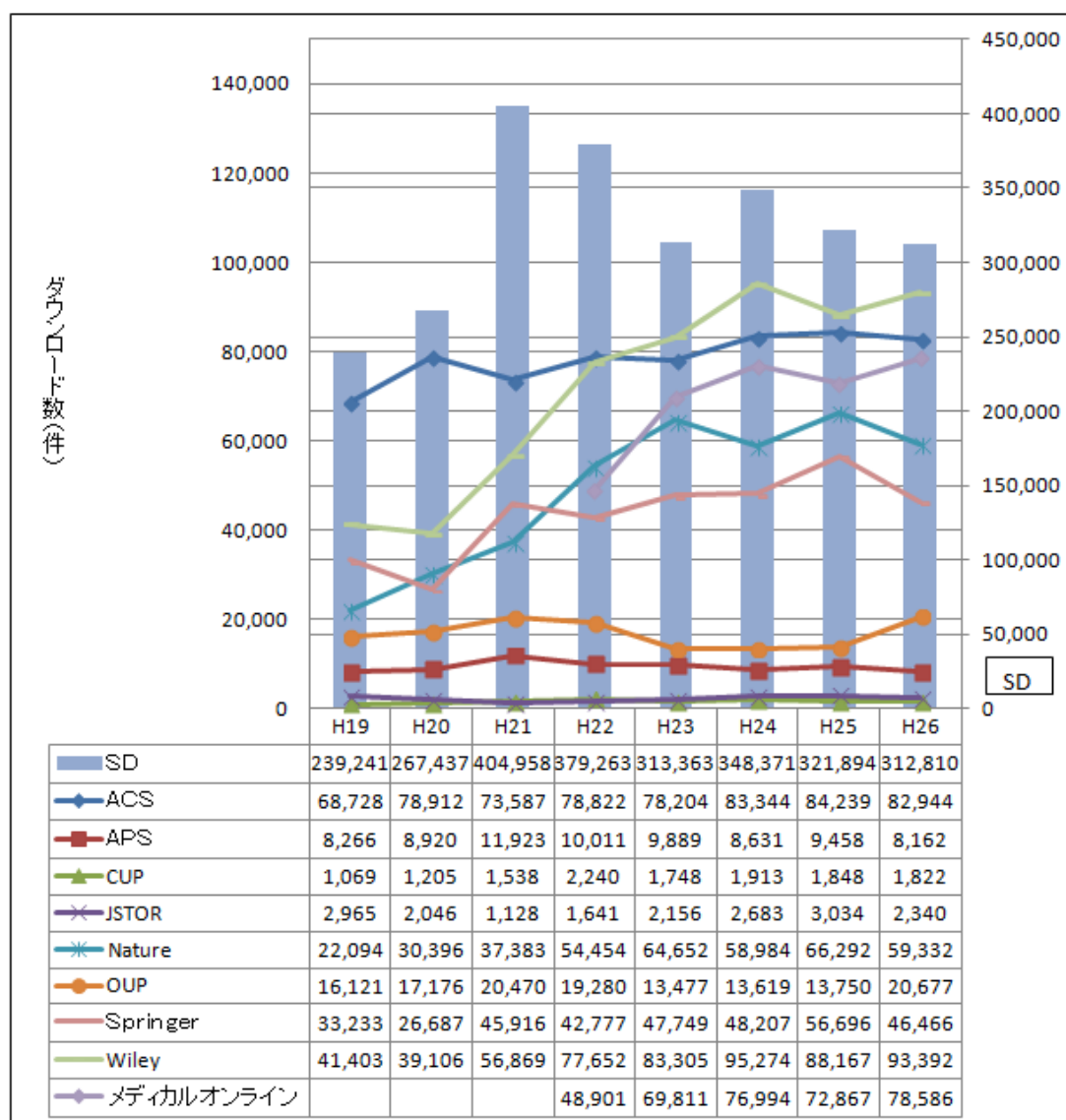
電子ジャーナル、データベースの充実に伴い、紙媒体の雑誌の購読数は減少の一途をたどっている。予算規模の大きい一部の大学では、紙媒体の雑誌も購入を続けており、それは万一の場合（電子ジャーナルを出版している会社の倒産など）を考えれば望ましいことではあるが、本学では紙媒体の雑誌購読数の減少は致し方ないとする。したがって、紙媒体の雑誌の整備としては、利用度の高い外国雑誌などで、バックファイルが紙媒体しかない場合に、製本雑誌の保存状態に注意を払う必要がある。

4-4 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備

【状況】

- 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備については、「金沢大学附属図書館基本理念と目標」及び「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」で「教育・研究を支える先進的な学術情報基盤とアクセス手段の提供」「電子ジャーナルの安定的な確保」を最優先の目標として掲げている。また、「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」では、「第3期中期目標・中期計画期間中の整備計画の策定」を掲げており、平成27年度前半に策定予定となっている。
- 電子ジャーナルについては、「ビッグディール（大手学術雑誌出版社が提供する全タイトルを閲覧できるパッケージ単位での購入）」が定着し、利用できるタイトル数が増加する一方、価格は高騰している。
- 電子ジャーナル及び二次資料データベースについては、平成22～27年度の第2期学術情報基盤整備計画により、共通経費化した部局経費（期間中は定額）と、法人が負担する特別整備事業費で購入している。
- 導入するタイトルについては、原則として3年間継続した後、各部局からの要望、費用対効果等を勘案し、図書館委員会の下の学術情報基盤整備WGで見直しを行っており、平成26年度現在、7,730タイトルが利用可能となっている（図4-4）。
- 学術情報基盤整備計画では、最新号を利用することができる出版社系の電子ジャーナルを中心に購入し、アグリゲータ（多くの出版社の電子ジャーナルを包括的に収集・提供するサービス）系の電子ジャーナルパッケージの購読は少ない。
- 二次資料データベースについても学術情報基盤整備計画、図書館事業費により整備を行っており、平成26年度現在で19タイトルが利用可能となっている
- 電子ジャーナルの利用状況は、図4-5となっており、活発に利用されている。
- 電子ジャーナル及び二次資料データベースに関する学内研究者の満足度、意見については、平成25年度末にアンケート調査を行って把握し（資料15）、概ね満足という回答であった。また、結果については第3期学術情報整備計画の策定の際に参考にした。

図 4-5 主要電子ジャーナルパッケージの利用の推移(毎年度末雑誌・電子情報係調べ)



【分析・評価】

評価： □非常に良好である ■概ね良好である □ある程度良好である □不十分である

分析・評価コメント：

ここ 10 年間にわたり、本学では学術情報基盤整備計画として、電子ジャーナル、データベースの安定的な提供を目標に、予算の確保と効率的な購読努力をかさねてきた。その結果、購読タイトル数は増加し、多くの利用件数（論文ダウンロード数）からも窺えるように、本学の学術基盤として不可欠のものとなっている。しかし、その購読価格の上昇が社会問題となっており、大手出版社のパッケージ契約を中止する大規模大学がある中で、本学は三大大手出版社（Elsevier、Springer、Wiley）の電子ジャーナル

パッケージ契約を継続しており、結果として大規模大学よりも良好な研究環境を維持している。

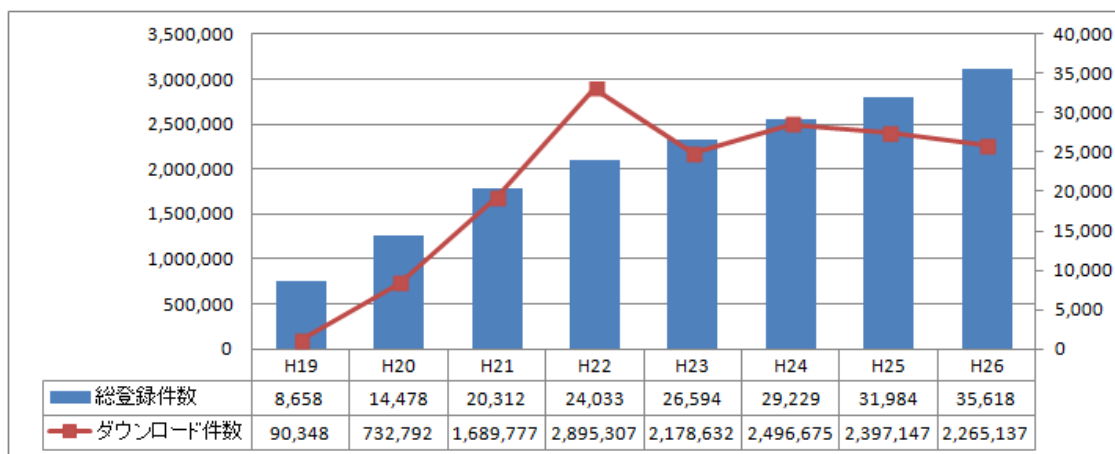
ただし、それは三大出版社に限ったことであり、研究分野によっては基幹的な雑誌の購読が行われていない分野もある。そこに大規模研究大学との差が現れている。今後とも、限られた予算から学術基盤としてふさわしい購読タイトルの選定に留意し、今後の大学財政の状況に応じて、より良い負担の仕方を継続的に模索する必要がある。

4-5 金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）

【状況】

- 金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）の整備については、「金沢大学附属図書館基本理念と目標」及び「金沢大学附属図書館中長期ヴィジョン」において、「金沢大学の知的研究成果の発信」及び「コンテンツのさらなる充実」を目標として掲げ、「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」では、「学術雑誌掲載論文等の登録義務化をめざす」とされている。
- KURA は、平成 18 年 6 月に、本学教職員等が教育・研究活動の結果として生み出した学術論文、紀要等の全文を登録し、インターネットを通して世界中に発信するために公開した。公開以来、図 4-6 のとおり、順調に登録件数を増やし、毎年 25 万件以上のコンテンツがダウンロードされている。
- 「第 4 期科学技術基本計画(平成 23 年 8 月閣議決定)」、「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について（平成 24 年 7 月科学技術・学術審議会学術基盤作業部会(審議まとめ)」等、我が国における研究成果のオープンアクセス化の動きは加速している。

図 4-6 KURA のコンテンツ累積登録数と利用件数（「図書館概要」及び雑誌・電子情報係調べ）



【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

ここ数年はダウンロード回数が横ばい状態にあるが、登録数は一定の割合で増加しており、整備状況は良好である。今後、研究成果のオープンアクセス化は加速することが予想され、全学的なオープンアクセスに関する方針を定める必要がある。また、博士論文全文の登録の流れの効率化、科研費による研究成果のオープンアクセスの義務化への対応が今後の課題である。

4-6 目録情報の電子化

【状況】

- 大学で所蔵する蔵書の目録情報については、平成 25 年度末現在、図書所蔵 856, 117 件、雑誌所蔵 43, 761 件がオンライン蔵書目録（OPAC plus）で検索可能となっている。
- OPAC plus の検索結果画面に表示される研究室名は、学域学類制発足前の名称を使用している。
- 現在未登録の図書の目録情報の遡及入力については、研究室から附属図書館に資料が返納された際に各館で実施しているが、近年、研究室の狭隘化に伴い、研究室全体の資料を大量に図書館に返納するケースが増えており、作業が追いついていない状況である。
- 前身校から引き継いでいる旧四高の蔵書、暁烏文庫の資料については、主として和装本、漢籍等の遡及入力が終わっておらず、石川師範学校や金沢高等師範学校の図書は、殆ど遡及入力が終わっていない(表 4-1)。

表 4-1 前身校等の蔵書の目録の電子化状況（平成 27 年 7 月調べ）

	登録済	未登録	所蔵冊数（図書原簿から算出）
暁烏文庫	22, 189	27, 409	49, 598
第四高等学校	34, 451	62, 908	97, 359
石川師範学校	5, 626	30, 459	36, 085
金沢高等師範学校	235	7, 746	7, 981

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

目録情報の電子化は 1990 年代はじめの新規購入資料について始まり、その後の遡及

入力も経て今日に至っている。それらの目録情報は金沢大学附属図書館蔵書検索システム (OPAC plus) によって日々利用されており、図書館利用ツールの根幹を成している。図書館所蔵資料については、前身校から引き継いだ蔵書を除き、ほぼ検索可能になっているが、一方で電子化以前の研究室 (コース) 所蔵資料の目録情報は電子化されていないものも多く、その結果、総蔵書数 187 万冊余のうち OPAC plus で検索可能なのは 86 万冊弱、すなわち全体の半分に満たないのが現状である。非オンラインあるいはオンラインでの検索方法を独自に工夫しているコース・研究室もあるが、不便を感じている研究室 (コース) もあり、更なる遡及入力による効果的なオンライン検索環境の整備が必要である。

4-7 コンテンツの電子化

【状況】

- 「金沢大学附属図書館理念と目標」「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」で記載のとおり、電子的資料の購入や蔵書の電子化に取り組んでいる。
- 電子ジャーナルやデータベースに加えて、電子書籍の購入を進めている (表 4-2)。
- 電子ジャーナル、データベースの整備については「4-4 (p. 32)」で記載済
- 所蔵資料の電子化については「7-4 (p. 58)」で記載する。

表 4-2 電子書籍の購入タイトル総数の推移 (平成 27 年 7 月調べ)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
和図書	0	0	0	0	0	1	153	213
洋図書	0	0	5	1	3	8	1,371	108
合 計	0	0	5	1	3	9	1,524	321

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

和書における電子図書の普及は進んでいないが、洋書については多くの電子図書が販売されている。しかし、本学で整備されているのは環境学コレクションなどごく少数に限られ、ほとんど整備されていない状況にあり、大規模研究大学との格差が生じている。電子図書の整備は学生の学修・研究にとっても大きなメリットがあり、導入促進が今後の検討課題である。

4-8 各種コレクションの整備

【状況】

- 金沢大学附属図書館独自のコレクションとして、次の表 4-3 のようなコレクションがある。これらには、前身校から引き継いだもの、寄贈によるもの、図書館の方針で重点的に整備しているものが含まれる。
- 今回の評価期間中、新たなコレクションとして、自然科学系図書館の「環境学コレクション」と「北陸銀行文庫（中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館）」が加わった。

表 4-3 コレクション一覧（「図書館概要 2014」及び平成 27 年 7 月調べ）

文庫名	内容	冊数
第四高等学校蔵書	金沢大学の前身である旧制第四高等学校が所蔵していた図書	97,359
暁烏文庫	石川県白山市北安田町浄土真宗大谷派明達寺元住職、暁烏敏師旧蔵の図書。各分野に渡る膨大な蔵書。このうち 13,500 冊が仏教関係図書。	49,124
阿閉文庫	元金沢英和学校校長で、エスペラント語を広めたことでも知られる畜産業家阿閉政太郎氏寄贈の蔵書。	245
井田文庫	教育者、井田竹治氏寄贈の蔵書。享保 9 年から天保 8 年までの浄瑠璃本のコレクションを含む。昭和 25 年 12 月に本学に寄贈された。	111
浦井文庫	元第四高等学校教授、浦井鯉一郎氏及び同教授記念事業会寄贈の図書。西洋史に関する文献が多い。	487
金戸文庫	元県立中学校の数学教諭、金戸貞敬氏寄贈の和算書についてのコレクション。	500
岸文庫	元第四高等学校教授・元本学講師、岸重次氏寄贈の蔵書。英語・英文学関係図書中心。語学以外の資料は金沢市立図書館に寄贈。	1,001
駒井文庫	元第四高等学校教授、駒井徳太郎氏寄贈の蔵書。加賀藩刊行の図書・郷土資料等や経書類が多い。	5,492
鈴木文庫	元教養部教授、鈴木直治氏旧蔵のコレクション。古代漢語に関する資料が中心。	5,075
北条文庫	元第四高等学校校長・元学習院院長、北条時敬氏寄贈の蔵書。江戸期の写本が中心。日本青年館、日本棋院、石川県立図書館等にも寄贈。	1,713

用和堂文庫	旧加賀藩礼法指南役、渡辺家寄贈の蔵書。礼法及び有職故実に関する図書が中心。この蔵書は渡辺篤氏が四高在学中に寄贈したもの。	919
宮本文庫	元滋賀大学学長で第四高等学校卒業の宮本憲一氏寄贈の蔵書。財政学、環境経済学、地域経済学、地方自治論、公害問題など	7,562
和田文庫	元法文学部教授、和田三良氏（専門は経済史）寄贈の蔵書。経済史学を中心として、法文経済系図書が多い。	1,647
北陸銀行文庫	平成 20 年度、本学と北陸銀行との間に締結した「包括的連携協力協定に関する覚書」事業の一環として寄贈を受けた図書を各館に配架している。	529
環境学コレクション	本学の第二期中期目標・中期計画で掲げている、学士・修士一貫の環境教育プログラムの基本資料とするために、平成 22 年度から国内外の環境に関する資料を収集し、自然科学系図書館に設置している。平成 24 年 7 月には、中央図書館に、ユネスコスクール・セクションを設置し、ユネスコスクールや ESD に関する報告書や事例集・パンフレットなどを収集・配架している。	4,155

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

さまざまな蔵書コレクションを有する中で、特に第四高等学校蔵書は、本学の源流を成すものであり、歴史ある本学をアピールするものとして貴重な資料群である。

平成 20 年度以降では、「北陸銀行文庫」や「環境学コレクション」を設置し、短期間で充実した資料の整備を行っている。

5 サービス

5-1 開館日・開館時間

【状況】

- 現在の開館状況は、表 5-1 のとおりである。
- 自然科学図書館については、「(1) 閉館後のセキュリティが確保できない、(2) 冷暖房なしの状態であり、滞在しうる学習環境を提供できない、(3) カードキーを持たない学生（文系・医系・理系 1～2 年生）が利用できない」という理由により（資料 16）、平成 21 年度以降、24 時間開館を中止した。その一方で、中央図書館、医学図書館の閉館時間を 20 時から延長し、全館の通常時の平日の閉館時間を 22 時とした。
- 平成 25 年度実績で本学と規模や附属図書館の構成の点で共通点の多い、旧六大学との運用を比較した結果は、図 5-1、図 5-2 のとおりである。
- 利用者アンケート（資料 9）では、開館時間延長についての要望が多数あった。

表 5-1 3 館の開館時間一覧（平成 26 年 5 月 1 日現在）

館 名	開 館 時 間		
	平日	土曜日	日曜日
中央図書館	8:45-22:00 休業期 8:45-17:00	9:00-17:00 休業期休館	9:00-17:00 休業期休館
自然科学系図書館	8:45-22:00 休業期 8:45-17:00	10:00-17:00 休業期休館	休 館
医学図書館	8:30-22:00 休業期 8:30-22:00	10:00-16:00 休業期 10:00-16:00	休 館
保健学類図書室	8:45-22:00 休業期 8:45-17:00	10:00-17:00 休業期閉室	休 室

図 5-1 同規模の国立大学附属図書館中央図書館の開館状況（平成 25 年度）の比較
（平成 26 年度調べ）

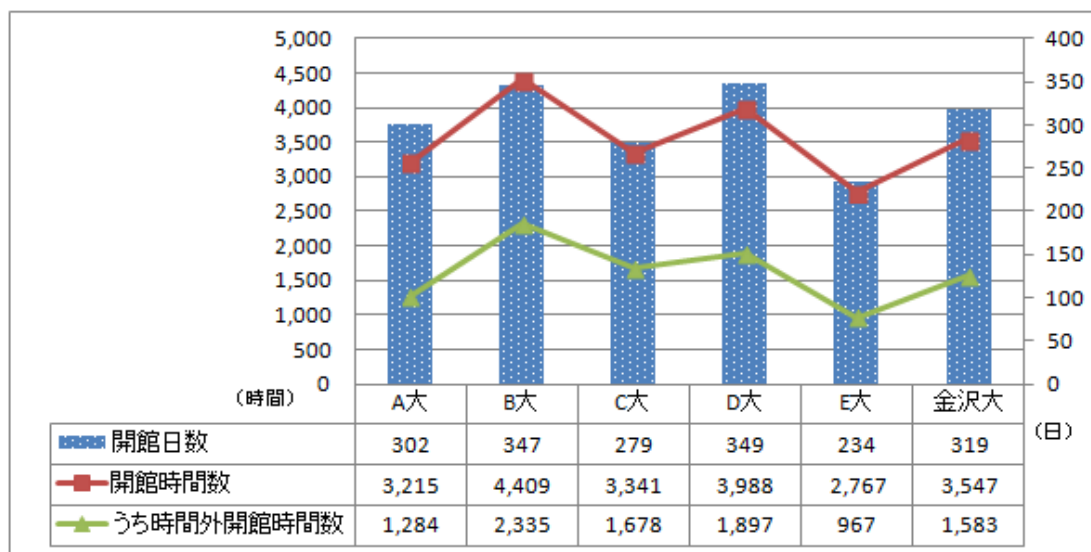
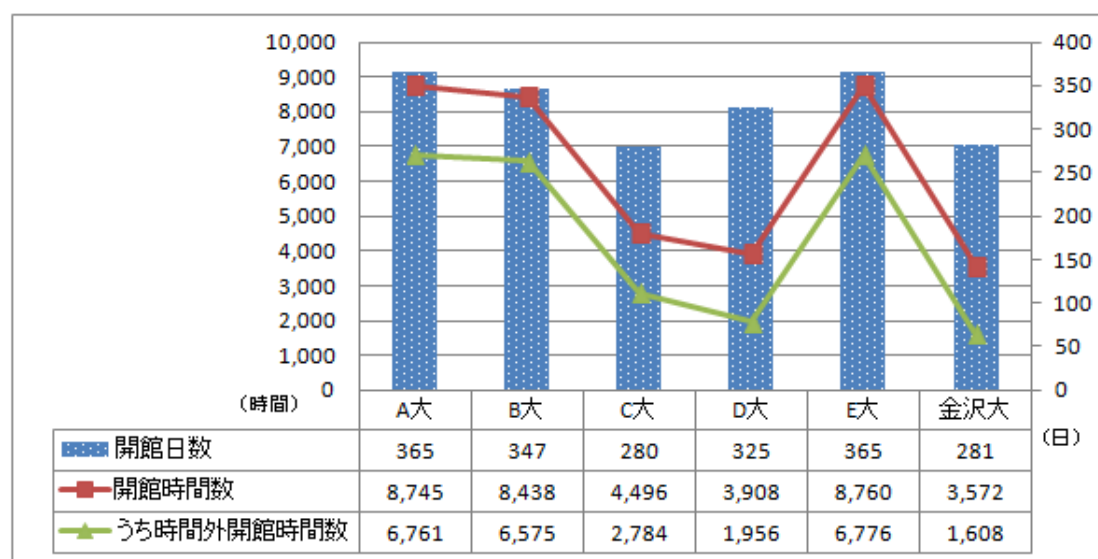


図 5-2 同規模の国立大学附属図書館医学図書館の開館状況（平成 25 年度）の比較
（平成 26 年度調べ）



※ A 大、B 大、E 大は 24 時間開館

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

同規模国立大学との運用を比較した結果、中央図書館の開館状況は平均程度だが、医学図書館の開館状況については、学生サービスの観点から、開館時間数の点で検討の必

要がある。

5-2 来館利用及び貸出冊数

【状況】

- 入館者数、貸出冊数の推移は、図 5-3、5-4 のとおりである。

図 5-3 総入館者数及び貸出冊数の推移（「図書館概要」）

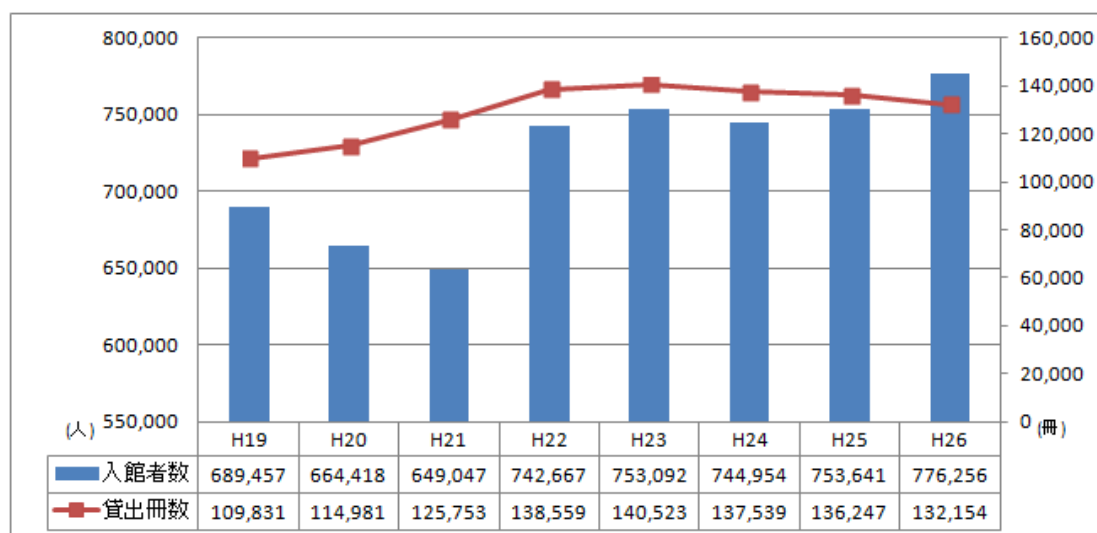
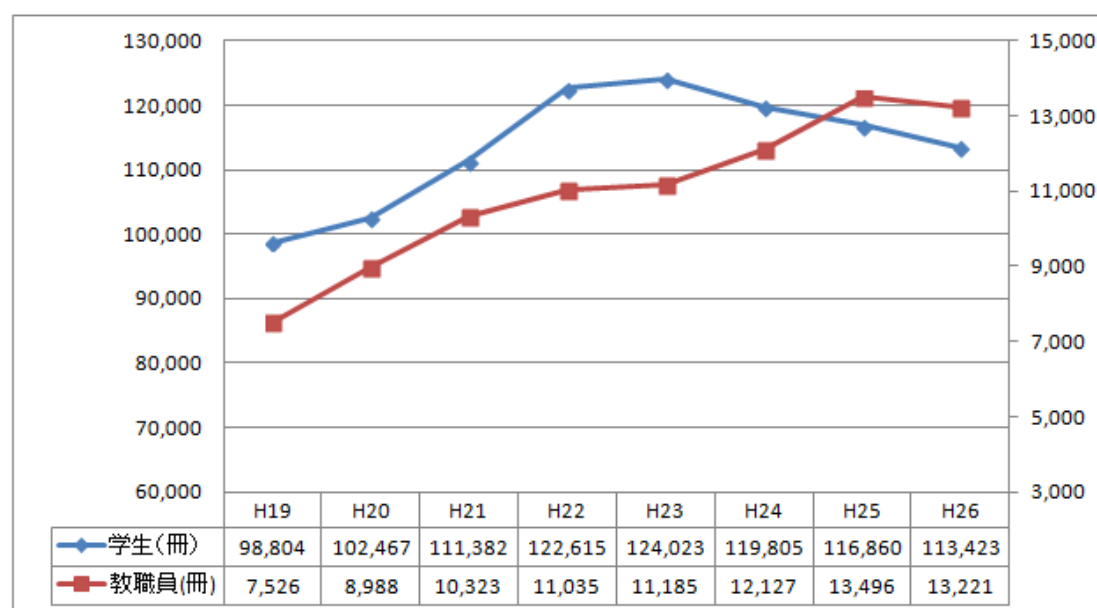


図 5-4 貸出冊数の推移（学生・教員別）（「図書館概要」）



【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

入館者数は、平成 21 年度末の中央図書館ラーニング・コモンズの設置後、大幅に増加している。また、貸出冊数は、学生、教職員とも「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」の時点より増加している。

5-3 図書館職員が行う利用者サービスの質

【状況】

- サービス全般について、「金沢大学附属図書館基本理念と目標」では、「すべての利用者へのきめ細やかな支援の提供。一冊の本、一人の利用者たりともおろそかにしない万全のサービスの具体化」「3 館の特性を生かした、利用者ニーズに応えるサービス」としている。
- 利用者アンケートでは、貸出・返却等の窓口サービスについて「満足」「やや満足」「普通」と回答した割合が 91%となっている（資料 8-1-質問 3）。
- 「図書館スタッフは利用者一人一人を大事にしていると思いますか」という質問については、「そう思う」「ややそう思う」と好意的に感じている人の割合が 62%となっている（資料 8-1-質問 4）。
- 利用者アンケート（資料 9）では、職員に対して、多くの意見が出されている。

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

貸出・返却等の窓口サービスについて大半のアンケート回答者が、普通以上の満足度を感じていることから、適切にサービスが提供されている。一方、「一人一人を大事にしていると思うか」と質問では、好意的に感じている人の割合が 62%にとどまっており、今後、利用者の個別のニーズに対応する必要がある。

5-4 ILL（他大学等図書貸借及び文献複写）

【状況】

- 現物貸借（図 5-5）については、平成 20 年度以降、「貸出」と「借受」はほぼ拮抗している。なお、石川県内の公共図書館等との現物貸借については、「7-1（p. 55）」で記載する。
- 文献複写（図 5-6）については、件数が激減している。また、医学図書館が改装工

事を行っていたため受付を停止していた平成 23～24 年度を除くと、一貫して「受付」が「依頼」を上回っている。

図 5-5 他大学との図書現物貸借数の推移（「図書館概要」）

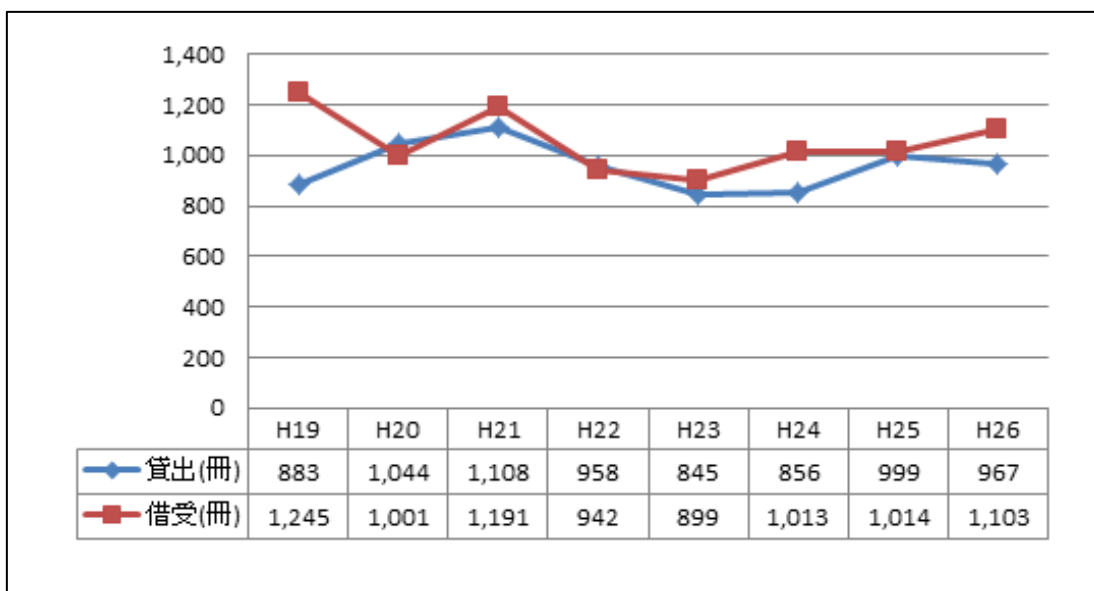
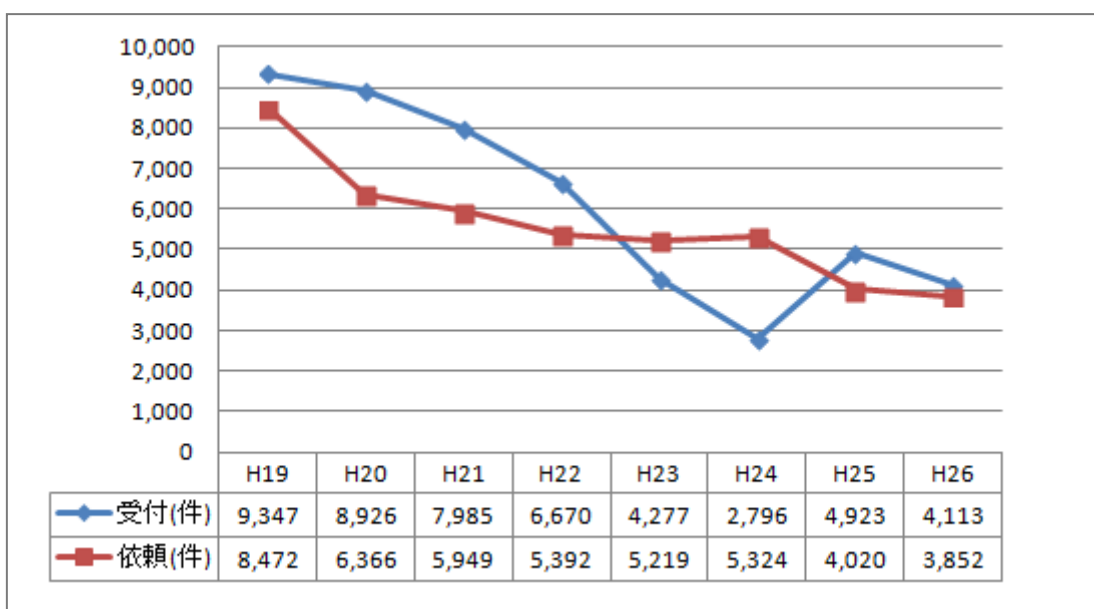


図 5-6 他大学との文献複写数の推移（「図書館概要」）



【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

文献複写件数が減少しているが、大学の研究活動における電子ジャーナル利用の定着と各大学の紀要を含む学術雑誌のオープンアクセス化の進展によるところが大きいと考えられる。

5-5 イベント

【状況】

- 平成 20～26 年度のイベントの実施状況は資料 20 のとおりである。平成 21 年度末に中央図書館にラーニング・コモンズ設置後、ブックラウンジ等を活用した図書館主催のイベントが大幅に増えた。
- この期間に実施した特徴的なイベント、新規に始めたイベントとしては、次のものがある。

① 明後日朝顔プロジェクト（平成 21～25 年度）

明後日朝顔プロジェクトとは、平成 15 年にアーティストの日比野克彦氏が新潟県十日町市荻平で地元の住民との交流を促進する目的で、住民と朝顔を育てたことから始まり、年々全国各地に広がった。金沢大学附属図書館では、平成 21～25 年度までの 5 年間にわたって活動し、苗植え式や収穫祭には多くの学生や教職員が参加した。

② EU カフェ（平成 22 年度～現在）

附属図書館には、金沢大学 EU 情報センターが設置されている。平成 22 年度からは、本学学生、教職員及びその他図書館利用者に対し、今日の EU の経済状況についての理解を深めてもらうことを目的とし、毎年 5 月 9 日のヨーロッパデーにあわせた日・EU フレンドシップウィーク期間中に開催している。

③ 金沢美術工芸大学との共催による展覧会・講演会（平成 22～24 年度）

本学と金沢美術工芸大学との間で「大学間交流に関する包括協定」を締結したのを機に、中央図書館ブックラウンジで、展覧会と講演会を並行して行った。

④ ブックリユース市（平成 22 年度～現在）

不要になった図書(私物)を学内でリユースしようという趣旨ではじまった。春と秋に開催している。

⑤ 金沢大学附属図書館 ECO 学習コンクール（平成 24 年度～現在）

「7-3 (p.56)」で記載する。

- 図書館報「こだま」と連動した、教員おすすめ図書の展示については、従来は中央図書館のみで実施していたが、平成 22 年度からは医学図書館でも実施を行うことにした（中央図書館での展示期間終了後、医学図書館に移動）。
- 平成 25 年度以降、自然科学系図書館でも図書館職員の企画による企画展示を継続的に行っている。
- 利用者アンケート（資料 8-1-質問 28）によると約 52%の学生が図書館内でのイベント、展示等の活動について「関心がある」「やや関心がある」と回答している。

【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

中央図書館を中心に、各種イベントを積極的に開催し、図書館施設の多様な有効活用と利用者数の拡大を図っている。

5-6 広報

【状況】

- 附属図書館の広報出版物として、広報誌「こだま」を年 3 回発行し、KURA に登録し、Web 上で公開している。また、平成 26 年 7 月には、過去分の「こだま」（著作権処理済のもの）を KURA に一括登録した。
- 冊子版の「こだま」については、新入生特集号を全新生に配付しているが、その他の号については、教員に配付するほか、来館者用に図書館内に置いている。また、利用者アンケートでは、「こだま」を「読んだことがない」と回答した人が 65%に上った（資料 8-1-質問 15）。
- メールマガジンとして全教員に随時送信していた「ひかり」は、平成 25 年 12 月に 100 号を以て配信を中止し、お知らせすべき事項、イベントがあるたびに、アカンサス・ポータル等を通じて、一斉送信を行うことに変更した。
- 平成 25 年 7 月からは、附属図書館公式 Facebook ページを開設し、SNS を活用した広報を開始した（表 5-2）。
- 「附属図書館概要」については、従来は 2 年に 1 回の発行としていたが、平成 23 年度からは、前年度の実施事業の報告的な意味合いも含め、年 1 回発行することに変更した。
- 「図書館利用案内リーフレット」は、全館情報をまとめたものを毎年 4 月に作成し、全新生に配付している。その他、「一般利用者向けリーフレット」、「英文版リーフレット」も作成し、閲覧カウンター等で配布している。
- 図書館ウェブサイトについては、平成 25 年度にデザインを更新した。

表 5-2 Facebook の閲覧数（平成 27 年 7 月調べ）

	H25	H26
閲覧数	7,346	21,071
いいね!数	195	38

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

利用者アンケートによると、「図書館 Web サイトは利用者が自力で情報を見つけられるように作られている」という質問に対し、約 65%が「思う」「やや思う」と回答している一方、自由意見で出された意見を分析すると、「公式 Web サイトの改善」の要望も多く、今後の課題である。その他、「図書館の利用方法等に関する広報の充実」「留学生向け利用案内の充実」「利用者向けの読書案内の充実」への要望も多く、施設や資料の利用についての周知及び知的好奇心を満たす取り組みが今後の課題である。

5-7 利用者満足度

【状況】

- 利用者アンケート中の「サービスの質全般について評価をして 10 点満点で点数をつけてください」という質問（資料 8）について、「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」と比較すると、6.13 から 7.13 にポイントが上昇し、全般的な利用者満足度は高まった。
- 以下、具体的な質問について、前回と今回での満足度の比較を行った結果は表 5-3 のとおりである。

表 5-3 利用者アンケートにおけるポイントの変化

番号	質問	利用者アンケートのポイント数（10 点満点で比較）	
		H20	H26
Q9	文献検索等の講習会は役立っている	4.95	6.74 ※ただし、今回「参加したことがない」と回答した人が 72%だった。前回はこの選択肢がなかったため、相対的に「役立っている」と回答等した人が増えたことも考えられる。
Q10	図書館員は利用者からの学習に関する質問に回答できる知識を持つ	6.08	5.75 ※前回に比べると、図書館職員に対する

	ている		要望が増えている印象
Q13	ILL サービスは役立っている	5.75	8.04
Q14	図書館スタッフは利用者一人一人を大事にしている	5.63	6.56
Q15	図書館の開館時間	5.79	5.30
Q16	図書館 Web サイトは自力で情報を見つけられるように作られている	5.85	6.85
Q17	学習や研究のために必要な蔵書	6.00	6.05
Q18	学習や研究のために必要な電子ジャーナル	5.71	5.98
Q19	オンライン蔵書目録	6.18	6.80
Q20	人に頼らずに資料に簡単にアクセスできる	5.94	6.60
Q23	図書館は安全で安心できる場所である	5.94	6.60

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

図書館のアメニティ（空調、トイレの老朽化等）を中心に、利用者アンケートの自由記述では多数の要望が出されている。しかし、前回報告書に比べて入館者数が増加している点を考えると、医学図書館の増改築、中央図書館のラーニング・コモنزの設置等、施設の整備と各種活動の活性化に伴い、全般的に利用者の満足度は高まっている。より良い環境を提供するため、引き続き、老朽化が進む施設の改修が必要である。

（注）冷暖房の老朽化については、平成 27 年度に中央図書館室内空調設備の改修を行うこととなった。また、中央図書館のトイレについては、平成 27 年度 3 月に 2 階、平成 27 年 9 月に 3 階の改修を行った。

6 学修支援

学修支援については、前回は独立した評価項目となっていなかったが、大学図書館の果たすべき機能として近年重視されていることを受け、今回から独立した評価項目とした。

6-1 情報リテラシー教育

【状況】

- 情報リテラシー教育として、平成 20～26 年度は表 6-1 のような活動を実施した。
- 「授業との連携」については、平成 18 年度以降、共通教育機構がカリキュラム改編を行った際に新しく設けられた「大学・社会生活論」及び「情報処理基礎」の中の 1 コマ又は 2 コマを図書系職員が担当し、全新入生を対象に情報リテラシー教育を行うことが定着している。図書館利用法の基本、蔵書検索、日本語学術論文の検索についての内容が中心で実習を含んでいる。授業は、情報サービス課の職員のみならず全図書系職員が分担して実施している。
- 図書館内で図書系職員が行う「レポート作成基礎講座」、「文献収集法講座」等の説明会・講習会を平成 21 年度末のラーニング・コモンズを設置後、定期的に行っている。
- 平成 24 年度以降は、留学生を対象としたオリエンテーションを国際交流関係の学生サークル等の協力を得て実施している。
- 職員による金沢大学附属図書館学術情報リテラシー教育推進 WG の活動により、平成 25 年度及び平成 26 年度東海北陸地区国立大学図書館協会学習支援ライブラリアンコンテストで、附属図書館として、それぞれ優秀賞、最優秀賞を受賞した。
- 平成 26 年度に、OPAC plus の利用案内動画（日本語版、英語版）を作成した。

表 6-1 附属図書館における学修支援活動の推移 (平成 27 年 7 月調べ)

#	区分	名称		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	備考	
1	共通教育科目 選択科目の講師担当	大学・社会生活論	回数	14	14	14	14	14	14	14	全新生対象	
			人数	1,827	1,821	1,801	1,814	1,806	1,726	1,780		
		情報処理基礎	回数	32	35	35	35	35	35	35	全新生対象	
			人数	1,827	1,821	1,801	1,814	1,806	1,726	1,780		
		大学・学問論	回数	1	1	1	1	1	1	1		
			人数	120	154	117	134	102	84	42		
2	授業・ゼミ等でのオンデマンド講習会等 * 依頼に応じて実施		回数	9	3	1	12	13	14	14		
			人数	131	42	2	231	379	332	336		
3	図書館職員による 講習会	レポート作成基礎講座	回数				5	6	9	6		
			人数				38	43	31	10		49
		文献収集法講座	回数					4	3	3	3	
			人数					21	14	25	15	
		その他の講習会	回数								2	H26は病院秘書 対象講習会
			人数								24	
		教員との共催による 講習会	回数					5	2			H23-24は大教 セ教員との共催
			人数					73	13			
4	学外担当者による 講習会等 *データベース 業者等が担当	SciFinder	回数	1	1	1	1	1	1	1		
			人数	53	54	50	60	47	45	22		
		WoS(EndNote)	回数	3	2	2	2	2	2	4		
			人数	59	32	50	52	23	100	72		
		Scopus	回数	2								
			人数	37								
		EBMR	回数						1	1		
			人数						31	15		
		UpToDate	回数								1	
			人数								10	
		WestLaw	回数	2		1						
			人数	8		8						
		ジャパンナレッジ	回数				1	1				
			人数				5	1				
		日経テレコン	回数							2	1	
			人数							38	24	
教育著作権セミナー	回数		1			1				放送大学と共催		
	人数		35			37						
その他	回数		3					5				
	人数		78					115				
5	ビブリオバトル		回数						6	6	大教セ教員と 共催	
			人数						144	155		
6	留学生オリエンテーション		回数					2	6	5	学生サークルと 共催	
			人数					18	25	55		
合計			回数	64	60	60	81	84	96	94		
			人数	4,062	4,037	3,867	4,247	4,277	4,401	4,379		

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

オンデマンド講習会への参加者や、ビブリオバトルの参加者など利用者学修支援活動の利用者数は概ね増加傾向にある。しかし、データベースの利用に係る外部者による講習会では利用者数が少ない講習会もある。認知度の問題であるのか、ニーズの問題であるのか、今後の動向を注視する余地もあるが、多様な情報リテラシー教育の機会を提供しているといえる。

6-2 学修支援制度

【状況】

- 平成 25 年度以降、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」の枠組みの中で補助金を獲得し、次のような学修支援活動を実施した。

① ラーニング・アドバイザー制度による授業関連の学修支援（平成 25 年度後期～平成 26 年度）

- ・ 学士課程学生の自学自習の充実及び学習の質を高めるため、教員の推薦を受けた院生や学類生 3、4 年生をラーニング・アドバイザーとして雇用し、図書館内のラーニング・コモンズや学類等で実施した。
- ・ 平成 27 年度以降、上記の授業関連のラーニング・アドバイザー制度は、別途金沢大学が採択されている「大学教育再生加速プログラム」の枠組みの中でアクティブ・ラーニング・アドバイザーが実施することとなった。附属図書館では、平成 26 年度までの方式を変更し、授業時間外における自学自習の充実及び学修の質の高度化に特化する形で、附属図書館内の学修支援デスクに常駐するラーニング・アドバイザーが学生からの質問に対応する対面形式による学修支援を実施予定である。

表 6-2 ラーニング・アドバイザーの実施状況（平成 27 年 7 月調べ）

		平成 25 年度（後期のみ）	平成 26 年度
LA 登録人数		34 人 ※学士 23 人、修士 10 人、 博士 1 人	37 人 ※学士 11 人、修士 20 人、 博士 6 人
利用科目数		12 科目	17 科目
実施述べ時間数		648 時間	541.5 時間
支援人数		796 人	3,202 人
活動 内容 （重 複あ り）	補習指導	5 科目	10 科目
	レポート指導	7 科目	10 科目
	実験事前事後支援	1 科目	2 科目
	プレゼン指導	0 科目	1 科目

②学修支援相談所（平成 25 年度～現在）

- ・ 学生の学習面での疑問や悩みに応え、アドバイスやサポートを行うために、大学教育開発・支援センターの協力のもと、中央図書館内に「学習支援相談所」を平

成 25 年 5 月から開設した。相談は、大学教育開発・支援センターの教員が担当している。

- ・相談日は、平成 25 年度は、週 2 回だったが、平成 26 年度からは、週 1 回開設している。相談日時が合わない場合は、個別対応も行っている。相談内容は、レポート・論文の書き方、プレゼンテーション方法、講義の受け方、ノートのとり方、テキストの読み方、資料や文献の探し方など多岐にわたり、実績は表 6-3 のとおりである。

表 6-3 学修支援相談所の実施状況（平成 27 年 7 月調べ）

	H25	H26
相談所開設日及び個別相談実施（回）	59	35
相談人数（人）	19	15
相談件数（件）＊1人で複数件の相談あり	28	16

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

制度を導入してから数年であるものの、ラーニング・アドバイザーによる相談支援人数は非常に多い。また、科目内容も複数に及んでおり、自立型学修支援制度が本格化するなかで、利用機会の増加が見込まれる。他方で、教員による学修支援相談所については、前年度に比べて開催日・実施回が半減しているが、相談人数が劇的に減少しているわけでもない。利用者アンケート結果によれば、学修支援に対するニーズが比較的多く見られる。今後、日本人学生のみならず、外国人留学生にも対応できるような国際化への取り組みが課題である。

（注）本学が文部科学省に採択されたスーパーグローバル大学創成支援事業で、留学生に対する自学自習の充実及び学修の質の高度化を図るため、附属図書館において留学生ラーニング・コンシェルジュ制度（英文名称：Learning Concierge for International Students, 通称：LeCIS（レシス））制度を平成 27 年度以降後期から導入した。

6-3 学修環境

【状況】

- 平成 21 年度末に、中央図書館にラーニング・コモンズを設置し、グループ学習が可能な学修スペースを整備した。
- 平成 24 年度に、医学図書館の改装を行い、学修スペースの拡充を図った（資料 18）。
- 各館の学修支援スペースの利用状況は表 6-4 のとおりである。

表 6-4 附属図書館の学修支援関係スペースの利用状況（「附属図書館概要」）

中央図書館																
部屋名	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
AV室	214	3,507	222	3,820	259	3,067	269	3,186	300	4,017	314	4,082	292	4,158	291	4,358
演習室, グループスタジオ	328	2,108	384	2,332	587	3,552	574	3,162	806	4,854	1,012	6,408	1,021	6,790	998	6,313
オープンスタジオ(予約利用のみ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	126	1,582	80	818	90	1,422
ブックラウンジ(イベント利用のみ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	703	24	925	46	1,183
合計	542	5,615	606	6,152	846	6,619	1,417	9,510	1,912	13,725	2,481	19,193	2,438	19,481	2,423	19,590

平成21年度まで演習室, 平成22年度よりグループスタジオ, 演習室, グループ学習室はまとめて計上

自然科学系図書館																
部屋名	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
AVホール	60	3,674	45	1,458	144	3,317	186	3,010	172	3,727	215	6,563	280	5,811	221	5,807
演習室	105	651	194	1,531	167	1,355	363	1,897	379	1,979	423	2,638	351	2,593	485	2,810
グループ学習室	693	2,042	424	1,458	554	1,588	699	2,125	720	2,262	1,030	2,794	565	1,756	707	2,142
研究個室	182	195	482	484	475	481	605	614	584	595	1,465	1,481	1,024	1,053	1,122	1,151
合計	1,040	6,562	1,145	4,931	1,340	6,741	1,853	7,646	1,855	8,563	3,133	13,476	2,220	11,213	2,535	11,910

演習室, グループ学習室, 研究個室はまとめて計上

医学図書館				
部屋名	平成25年度		平成26年度	
	回数	人数	回数	人数
十全記念スタジオ	94	2,745	144	4,615
グループスタジオ	3,640	13,173	4,044	17,421
研究個室	709	709	1,441	1,441
オープンスタジオ(予約利用)	0	0	0	0
ブックラウンジ(イベント利用)	3	1,070	7	252
合計	4,446	17,697	5,636	23,729

演習室, グループ学習室, 研究個室はまとめて計上

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

開館時間の延長などの影響もあるためか、中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館のすべてにおいて、学生の利用者数は概ね増加傾向にある。ラーニング・コモンズのほか、グループ学習が可能な施設の利用状況は活発であるとともに、施設・スペースの内容や利用方法を必ずしも熟知していない学生がおり、主体的・自立的な学修環境を求める潜在的なニーズは多いと思われるため、さらに積極的に広報活動を行い、利用増を目指す必要がある。

(注) 本学が文部科学省に採択されたスーパーグローバル大学創成支援事業費及び平成27年度国立大学改革基盤強化促進費（施設補助金）で、平成27年度に中央図書館・医学図書館のラーニング・コモンズを拡大し、自然科学系図書館にラーニング・コモンズを設置する予定である。

6-4 学生との協働

【状況】

- 平成21年度に、学生の自主的な活動を図書館業務にも生かすため図書館学生ボランティア制度「とぼら」を設置し、主に中央図書館で、学生の視点による選書、展

示、イベントの企画等を行っている（表 6-5）（表 6-6）。

- 中央図書館では、サークルや授業と協働した資料展示や、授業と協働した「短歌コンクール」等を企画した。

表 6-5 図書館学生ボランティア「とぼら」の人数の推移（「図書館概要」 ）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
人数	12	9	15	15	11	9

表 6-6 図書館学生ボランティア「とぼら」の主要活動記録（「こだま」より抜粋）

	主な活動
H21	愛称を「とぼら」に決定 ブックラウンジにとぼらが選書し、利用者が気軽に読むことのできる本や雑誌を集めた「ほん和か文庫」を設置 オープンスタジオで Tobora Desk+ 開始（現在は休止）
H22	新着図書コーナー横に「とぼら選書コーナー」を設置 ブログ PechaKucha とぼら開始（現在は休止）
H23	新入生向けサポートデスク設置 ランチョンセミナーで活動報告（新入生勧誘イベント） ぶつくとーくかふえ
H24	ランチョンセミナーで活動報告（新入生勧誘イベント）
H25	ランチョンセミナーで活動報告、活動報告パネル展示（新入生勧誘イベント） 自然科学系図書館に「ほん和か文庫」設置
H26	とぼらトーク in オープンキャンパス

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☐概ね良好である ☒ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

図書館学生ボランティア「とぼら」に関しては、発表・公表の場、専門職体験型の環境を提供し、ブックラウンジやカフェスペースにおいて有効に機能している。ボランティアとしての経験の意義や企画の意義を見直すなど、人的資源であるボランティア学生数の確保とともに、活動内容に係る認知度の向上や企画趣旨の明確化などが今後の課題である。

6-5 関連イベント

【状況】

- 職員の情報リテラシー教育の実施及び企画に関する能力の向上を図るため、大学間連携共同教育推進事業「図書館機能強化プログラム」として、図書館職員を含む関係者を対象に表 6-7 のとおり講習会等を開催した。

表 6-7 情報リテラシー教育関連講習会等の実施状況

	講習会等	講師等 () は当時の所属	参加人数
H24	シンポジウム「大学図書館における学習支援のこれから」	山田政寛（九州大）、岡部幸祐（名古屋大）、村田勝俊（金沢大）	50
H25	学習支援と大学図書館－図書館職員が持つべき学習支援力とは何か－（平成 25 年度石川県大学図書館協議会との共催）	井上真琴（同志社大）	41
	アクティブ・ラーニング基礎理解研修	NK S 能力開発センター	47
	「図書館機能強化プログラム」シンポジウム「大学図書館におけるこれからの学習支援：ラーニング・コモンズを超えて」	長澤多代（三重大）、鹿田正昭（金沢工大）、鎌田均（京都ノートルダム女子大）	53
H26	「図書館機能強化プログラム」講演会「大学職員のためのレポート作成指導法講座」	戸田山和久（名古屋大）、久保田進一（金沢大）	52

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

外部から講師を招くことで、他大学における知見を共有し、図書館職員を含む大学教職員に対する情報リテラシー教育に関する能力向上を図る目的で、平成 24 年度から実施されており、参加人数も安定している。内容は、当初は学修支援の方法論や枠組みなどのハード面での情報共有から、直近ではレポート作成などの具体的な教育内容などソフト面についても扱っている。引き続き、情報共有とスキル獲得の機会を設け、職員の能力向上を図る必要がある。

7 地域連携・社会貢献

7-1 県内公共図書館等との連携

【状況】

- 石川県内図書館横断検索（システム提供：石川県立図書館）に参加し、石川県内他図書館の蔵書の横断検索が可能となっている。
- 石川県立図書館が中心となって実施している石川県立図書館協力宅配便事業に参加し、平成 26 年現在、県内公共図書館 38、県内大学図書館 5、他県図書館 4 と相互貸借及び文献複写を行っている（表 7-1）。
- 平成 25 年度末には金沢市図書館、金沢美術工芸大学附属図書館と「金沢大学附属図書館、金沢美術工芸大学附属図書館及び金沢市図書館における貸出カードの共通使用に関する覚書」を締結し、平成 26 年度からは、これらの館の図書館利用券を本学の図書館利用券として利用することが可能となった。

表 7-1 石川県内の公共図書館との相互利用件数の推移（平成 27 年 7 月相互利用係調べ）

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
貸借	依頼	43	60	170	211	137	89	266	357
	受付	97	122	80	67	88	212	271	337
複写	依頼	0	3	0	0	0	0	0	0
	受付	62	89	42	54	50	44	48	29

【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

石川県内図書館横断検索システム及び石川県立図書館協力宅配便事業などに参加することによって、石川県内他図書館との連携は従来よりも確実に強化されてきている。利便性の向上の結果、金沢大学附属図書館と県内公共図書館との相互利用件数（貸借の依頼・受付など）も年々増加しており活動の成果が現れている。

7-2 一般市民の利用

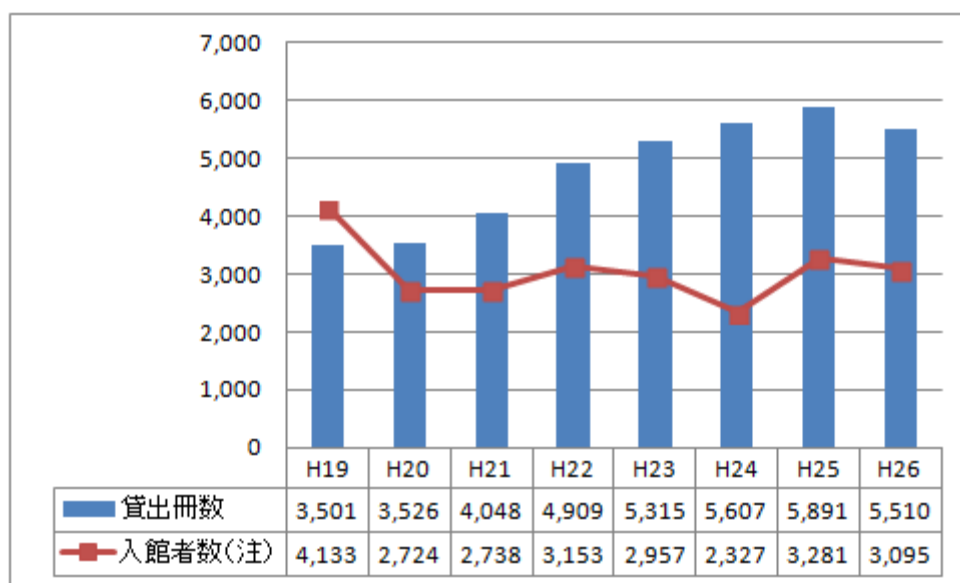
【状況】

- 「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」では、「地域住民の生涯学習を支援する空間の提供」「地域社会や国際社会との連携の推進とサービスの充実」を目標とし

て記載している。

- 各館への一般市民等の入館及び資料の館内閲覧については、従来から図書館利用券の発行なしで誰でも可能となっている。入館者数は、図 7-1 のとおりである。
- 来館者への資料の館外貸出については、従来から、北陸 3 県在住または通勤通学者、本学卒業生等に対して実施しており、年間貸出冊数は図 7-1 のとおりである。

図 7-1 一般市民への貸出冊数及び入館者数の推移（「図書館概要」）



(注)「一般利用者来館受付票」記入数

【分析・評価】

評価： ■非常に良好である □概ね良好である □ある程度良好である □不十分である

分析・評価コメント：

従来から一般市民の金沢大学附属図書館への入館及び資料の館内閲覧は図書館利用券の発行無しで可能である。また、来館者への資料の館外貸出については北陸 3 県在住または通勤通学者、本学卒業生等に対して実施している。この結果、一般市民の入館者数は 3,000 人前後、年間貸出数 5,000～6,000 冊前後で推移し、一般市民の利用が定着しており、地域に貢献している。

7-3 イベント等

【状況】

- 平成 24 年度以降、環境学コレクションの周知のために、地域の小中学生を対象として金沢大学附属図書館 ECO 学習コンクールを開催し、各年、表 7-2 のとおり作品

の応募があり、優秀作品については、学長大賞、附属図書館長賞等の表彰を行った。
また、応募を考えている小中学生を対象として「なんでも相談会」を行い、毎年、
本学の学生と図書館職員の協働で指導を行ってきた。

- 平成 25 年度以降、ECO 学習コンクールの PR の一環として、毎年 8 月に開催される「いしかわ環境フェア」に出展している。
- ECO 学習コンクールの実施による地域社会の学術情報共有の新たな場の構築等、情報通信の利活用を通じて教育研究活動の普及発展に貢献したことが評価され、附属図書館長が、平成 25 年度に北陸情報通信協議会表彰を受賞した。
- 一般市民等を主な対象とした講演会として、平成 21 年度までは暁烏文庫の寄贈者暁烏敏(あけがらす はや)師の功績をたたえる暁烏記念式及び記念講演会を開催していたが、平成 22 年度以降は、宗教以外のテーマを含むシンポジウムを 2 年に 1 回程度実施することとし、表 7-3 のとおり実施した。

表 7-2 ECO 学習コンクール応募数の推移

	H24	H25	H26
小学校	44	34	29
中学校	19	27	19

表 7-3 附属図書館シンポジウムの実施状況

	テーマ	講演者	参加人数
H23	芸術の普遍性を創る風土（ローカリティ）の衝撃	秋元雄史（金沢 21 世紀美術館長）	70
		日比野克彦（東京藝術大学教授）	
		宮下孝晴（金沢大学教授）	
H25	地球と人類の CO2 物語	神谷信夫（大阪市立大学教授）	71
		中澤高清（東北大学客員教授）	
		本多了（金沢大学助教）	
		鳥谷真佐子（金沢大学特任助教）	

【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

平成 24 年度から地域の小中学生を対象として ECO 学習コンクールを開催しており、地域のイベントとして定着しつつある。本活動は北陸情報通信協議会表彰を受賞するなど地域からも高く評価されている。また、一般市民を対象とした大学図書館らしいテ

マのシンポジウムを適切に企画・実施している。

7-4 所蔵貴重資料等の提供

【状況】

- 附属図書館所蔵の貴重資料は、「金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料の指定及び取扱に関する要項」（資料 19）に基づいて選定されており、中央図書館特別資料室、自然科学系図書館貴重資料室、医学図書館十全記念貴重資料室に保存している。
- 貴重資料の書籍等への転載、テレビ等での放送、展覧会等での展示のための貸出状況は、表 7-4 のとおりである。
- 貴重資料の電子化・インターネット公開については、金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアム・プロジェクトにより実施しており、以下の資料が利用可能となっている。平成 26 年度末現在、金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムに登録されている附属図書館所蔵資料は表 7-5 のとおりである。

表 7-4 貴重資料の貸出数の推移（「平成 20 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」及び平成 27 年 7 月調べ）

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
申請数（件）	3	データなし	18	27	19	20	30	38

表 7-5 金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムに登録されている附属図書館所蔵資料数（平成 27 年 7 月調べ）

平成 26 年度末

資料名	登録件数
第四高等学校教育掛図	211
石川師範学校郷土教育アルバム	14
金沢城古写真	11
成瀬日記	57
金沢医学図書館図面	67
儀式風俗図絵	24
加賀藩年中行事図絵	39
計	423

【分析・評価】

評価： ☐非常に良好である ☒概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

金沢大学附属図書館所蔵の貴重資料のメディアへの提供や展覧会等への貸出件数は確実に増加しており、金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアム・プロジェクトの効果も大きいと推察される。今後は、資料館と協働で、金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムの一般市民への認知度やアピール効果について調査するなど、本学が所蔵する貴重資料の公開の促進について検討が必要である。

7-5 環境への取り組み

【状況】

- 平成 24 年 7 月に、いしかわ事業者版環境 ISO 登録事業所として石川県の登録を受け、地球温暖化防止につながる活動を継続している。
- 平成 26 年度、先駆的・模範的な環境保全活動に積極的に取り組み、顕著な成果があった事業者として石川県知事から「いしかわ事業者版 ISO 優良活動表彰」を受けた。館内コンピュータサーバを総合メディア基盤センターのサーバ室に移転し、冷却用空調に係る電気使用量を削減するとともに、閲覧室や事務室の空調運転時間の短縮を実施したことで、電気使用量の削減に顕著な成果を上げたこと、さらに、いしかわ環境フェアへの出展、いしかわクールシェアの施設登録、環境に関する国内外の図書を集めた環境学コレクションの充実、小中学生を対象とした ECO 学習コンクールの実施等、多方面にわたる環境保全活動が評価されたものである。

【分析・評価】

評価： ☒非常に良好である ☐概ね良好である ☐ある程度良好である ☐不十分である

分析・評価コメント：

コンピュータサーバの移転、閲覧室・事務室の空調運転時間の短縮による電気使用量の削減など実務的な環境対策ばかりでなく、環境学コレクションの充実、いしかわ環境フェアへの出展、ECO 学習コンクールの実施など、利便性との両立も考慮しつつ、多角的視点から多方面にわたる環境保全活動を展開している。